

春夏 spring - summer  
2019

vol.  
**24**

# 春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53

横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 4 / 文学 6 / 写真・音楽・芸術 7 / 詩歌・俳句 8 / 観光・環境・自然 8 / 立教大学人文叢書 8 / 横浜市立大学新叢書 8  
東洋英和女学院大学社会科学叢書 8 / 総記・辞典・事典 8 / 教育 9 / 心理 10 / 言語 10 / 社会・歴史 10 / 政治・経済 11 / 人類学 12 / シリーズ来たるべき人類学 12  
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8  
コ・プレゼンスの時代へ 吉原直樹 9 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10  
【コラム】 自著を語る 5 / 書評 11 / 春風接人 12

学は、固<sup>まこと</sup>に知<sup>ち</sup>を舍<sup>す</sup>てざるも、  
徳<sup>とく</sup>を修<sup>しゆ</sup>むるを以<sup>もつ</sup>て本<sup>ほん</sup>となす。

ことば 『新井奥遼著作集』第3巻四五三頁／

『おうすいポケット 新井奥遼語録抄』七二頁より

木版 矢萩英雄「木花」(部分)

# 「学ぶ」「ついで」

——昌益の学び、昌益に学ぶ

二〇一九年三月三十一日、  
横浜市教育会館にて、  
「安藤昌益の会」事務局長の  
石渡博明氏をお招きし、  
春風社代表の三浦衛と  
対談しました。  
その模様をお伝えします。

対談  
**石渡博明**  
×  
**三浦衛**

## 春風と野

**石渡** お招きいただきありがとうございます。私は「安藤昌益の会」のほか、東京の板橋にある、社会福祉法人国際視覚障害者援護協会の理事長も務めています。アジアからの視覚障害の留学生を支援する団体で、日本の盲学校で鍼灸・マッサージを勉強し、自国へ帰って自立・社会参加してもらおうということをやっています。

「安藤昌益の会」は「直耕」という機関誌を出しています。三六号では「江戸時代に安藤昌益が障害者として見ていたか」を、最新号の四〇号では、「江戸時代の国際人」としての安藤昌益の立ち位置について書きました。

**三浦** 春風社は一八九九年十月に創業し、ただいま二〇期の半分過ぎた時期に当たります。諸橋鐵次の『大漢和辞典』（大修館書店）をひらくと、「春風」について「和ぎ暖かであるから、恩恵の深い諭」「萬物を發生するから、人を教育する諭」と説明があります。私どもは、「野」にある出版社として学術書を出すことが、いまの時代においてますます意義があると考えています。研究室や大学の中で行われた研究が外に出て行ったときどのような意味・意義を持つのか。また逆に、外で浴びた風をどう研究室の中で昇華し、記述して

いくのか。この「春風」と「野」というイメージを大切にしながら、今後も学術書を刊行していきたいと考えています。

石渡博明さんは一九四七年、横須賀市のお生まれ。東京教育大学を中退後、経済協力団体勤務のかたわら安藤昌益研究会に携わり、「安藤昌益の会」の事務局長を務めておられます。農山漁村文化協会（農文協）から出ている『安藤昌益全集』の編集・執筆にも携わってこられました。

今日のテーマは、「学ぶ」について——昌益の学び、昌益に学ぶです。安藤昌益がどんなふうに分身の学びを展開していったのか、江戸時代の人である昌益から今の私たちが何を学ぶことができるのか、石渡さんに伺いたいと思います。

安藤昌益について、『広辞苑』（岩波書店）により「江戸時代の医学者で社会思想家、万人の平等を唱え、万人が農耕に従事する自然性を理想とした」との説明があります。「守農大神」ともよばれました。「農業を守る神様」と尊称される人物です。

## 安藤昌益と秋田

**三浦** 安藤昌益は現在の秋田県大館市の生まれ。「安藤昌益」と聞いて（秋田出身の）僕が思い浮かべることからお話ししてください。

です。去年（二〇一八年）の夏の甲子園大会で準優勝しました。校歌の歌いっぷりはご覧になった方の印象に残っていると思います。

もう一つは、秋田生まれの農業指導者石川理紀の助。秋田では「農聖」「秋田の二宮尊徳」とよばれ、安藤昌益と重なるところのある人物です。金足農業高校の校舎の前には石川理紀の助の碑があり、「寝て居て人を起すこと勿れ」という有名な言葉が刻まれているそうです。自分で行動せず人に指示してやらせることを嫌い、みずから手本を示すタイプの人だったようです。昌益と同じく、秋田という風土のものの影響があるのかもしれない。

さらに個人的な思い出として僕の父親のことがあります。金足農業高校出身で今年で八七歳になり、いまも米作りに勤しんでいます。僕が大学の経済学部に入ったころ、夏休み秋田に帰り、大学で何を勉強しているか父に話しました。父は黙って聞いていて、秋田弁でボソッと「田植えのひとつもできねえくせに……」と言いました。「偉そうなこと言ってるな」ということでしょうか。

石川理紀の助には「寝ていて人を起すことなかれ」という言葉があり、安藤昌益には「直耕」という考えがあります。万人が農耕に従事することが理想であるというこの考えの中に、言葉ではなく行い、とりわけ農業ということが非常に強く打ち

出されています。僕の中では父の言葉がこれらに重なります。

安藤昌益については、『安藤昌益全集』（農文協）のほか、入手しやすいものとして、東洋文庫から『稿本自然真営道』、岩波文庫から『統道真伝』（上・下）、また岩波新書からE・ハーバート・ノーマンの『忘れられた思想家——安藤昌益のこと』（上・下）が出ています。石渡さんご自身が著されたものとしては『安藤昌益の世界——独創的思想はいかに生れたか』（草思社）と、秋田のかかわりにウエイトを置いた『いのちの思想家安藤昌益——人と思想と、秋田の風土』（自然食通信社）があります。

**世界史の中の安藤昌益**

**三浦** 石渡さんは、お勤めをしながら

らライフワークとして安藤昌益について学んでこられ、全集の編集にも携わり、現在でも『直耕』という機関誌を発行しておられます。

**石渡** 「ライフワーク」とおっしゃいましたが、それは結果としてそうなったものです。最初から決意して取り組んだわけではなく、渡世の義理や成り行きでここまで来たというのが実情です。

安藤昌益はハーバート・ノーマンの書名の通りの「忘れられた思想家」で、今は中学・高校の教科書に名前だけ出てくるくらいで、ほとんど知られていない。非常に面白い気がします。大袈裟に言うとうちの思想家安藤昌益——人と思想と、秋田の風土』（自然食通信社）があります。

江戸時代に、西洋的な思想の積み重ねとは違ったところで、東洋の歴史、東洋の思想の積み重ねの中かにいけば突然変異的に昌益という人が出てきた。ただ、学問の伝統からすると突然変異ですが、普通の庶民、農民からすると、私たちが普段考えていること、ごくごく当たり前のことしか昌益は

言っていない気がします。そういう意味で、さきほど紹介された『広辞苑』の説明も昌益の思想のくくり方としてひとつありうろと思えますが、私としては、「江戸時代に、現代に通じる平和学を構築した人」だと思っています。

以前に私は東京の千住にある経済協力団体に働いていました。アジアやアフリカ、ラテンアメリカから、日本へ技術の勉強に来る人たちの世話をする、経産省の外郭団体です。その研修旅行で京都に行き、立命館大学国際平和ミュージアムを知り、後日、そこを訪れました。そこには、平和の反対概念は戦争ではなく暴力だという、ノルウェーの平和学者ヨハン・ガルトゥングの言葉があったんです。彼は、平和の反対の概念として「暴力」を考え、戦争、虐待、拷問といった「直接的暴力」、支配や搾取などの「構造的暴力」、そして社会構造の矛盾に人々が気づかないようにする「文化的暴力」の三つを挙げています。この言葉を見たとき、安藤昌益が生涯をかけて言っていたことはこの暴力の三類型そのまじやないかと、びつくりしました。それから私は安藤昌益を、平和で平等な社会を希求した人物だと考えるようになりました。要するに、人の労働を踏み台にしていい暮らしをするのではなく、自分が汗を流して食いつけ、手に入る。農業を大事にし、自然と触れ合い、生命を常に感じながら生きていくことを昌益は説いていた。ここでの農業は漁業や林業も含む第一次産業のことです。平和で平等な社会とは、単に戦争がない状態ではなく、暴力のない状態を指しています。

**三浦** ハーバート・ノーマンの『忘れられた思想家』は世界史レベルで安藤昌益を位置づけている本です。ノーマンによれば、安藤昌益は徳川時代の日本社会を客観的かつ批判的に観察し、それを解体されつつある体制と見たただ一人の思想家でした。日本の封建社会を批判的に見ることについて彼を超える人間はいないと

言っています。ときに批判的な言葉があっても、全体を読むと、安藤昌益に対するノーマンの深い愛情がひしひしと感じられます。

その一方で、『統道真伝』（岩波文庫）の奈良本辰也さんによる解説を見ると「儒教についても、仏教についても、同じようなことがいえよう。徂徠や仁斎ほどの学殖もなければ山片燭桃ほどの仏教の理解もないのである。その一つ一つをとれば、彼の学者としての地位はせいぜい二流どまりだろう。あるいは、はつきりと三流の田舎学者といった方がよいかも知れない」と手厳しい。ノーマンにもそのような言葉がないわけではない。例えば「昌益を純朴な田舎医者と考えたい」と書いています。

## マルクスでもレーニンでもなく

**三浦** 石渡さんと安藤昌益との出会い、昌益を知ったきっかけについて伺います。

**石渡** 私は一九四七年に横須賀で生まれました。父は米軍の石油タンク関係の職に就いており、同級生にも親が米軍に関係する仕事をしている人が非常に多かった。そういう環境で育った私には、横須賀は米軍と自衛隊のために非常に不健全な産業構造しかないという思いが強くありました。欧米的な価値に対して強い憧れと、もう一方で強い反発がありましたね。

そういう中で東京教育大学（現在の筑波大学）に入学し、巻き込まれていった全共闘運動は、私にとつて非常に大きな意味を持つものでした。しかし私は党派というものが嫌いで、どこの党派にも加わったことはありません。彼らはやれマルクスだ、やれレーニンだ、そういうことしか言わない。運動に加わりながらも、もつと普通の言葉で世直しを語れないのかと感じていました。そんな折に、東京教育大学が警察管理大学となり、警官に学生証を見せないとキャンパスに戻れなくなつたことに反発して



石渡博明氏

大学では特殊教育、視覚障害者教

育を学ぼうと思っていきましたが、結局勉強はほとんどできませんでした。ある先生から「視覚障害者教育は日本ではもう歴史が古い。今はそれよりも自閉症とか肢体不自由のほうが就職口がある」と言われた。自分が障害者教育を志したのは就職口のたじめじゃないのに……という反発もあり、「大学解体」を言っていた私にとって、大学に残ることは考えられなかった。

昌益を知るきっかけとなったのは、当時東京の高田馬場にあった寺小屋教室です。野にあつても大学の研究と拮抗できるだけの内容のある学びの場をつくらうと、片岡哲治さん・清水多吉さん・後藤総一郎さんらが中心になってやっていました。後藤さんが柳田國男の民俗学、片岡さんがナチズムや精神分析学を教えらるる中で、寺尾五郎さんという方が安藤昌益の勉強会をやるという。金と人数が集まらないと講座を維持できないから来てくれと、中学・高校時代の友人から誘われました。私は安藤昌益のことなど全然知らず、その講座で初めて出会いました。こんな人物が江戸時代にいたのか、西洋的な伝統のない日本で、マルクスマレーニンらとは違った風の人々の解放、平等、平和ということを言っている人がいるのかと、それまで私がこだわっていたいろいろなものが解けてきました。昌益を自分にとって存在として感じました。

## 釈迦もだめ、孔子もだめ

**三浦** 昌益は既存の宗教や思想に対して、批判というよりほとんど否定してかかっている。例えば、聖徳太子もだめだし、釈迦も孔子もだめ、我々が古典として読んでいるものは全部だめだ。仏教でいうと日蓮だろが親鸞だろが道元だろが、軒並みだめ。要するに、農耕に従事しない人間が人様からお布施を受けているに過ぎぬではないか、権力者が農民を支配するための道具として仏教や儒学があるのではないか

と、徹底している。

ところが安藤昌益の経歴を見ていくと、石渡さんの本にも書かれていますように、若いときには仏教に傾倒し、「自分の恩師から「悟りを得た」ことを認めてもらっています。それをのちに振り返って彼は「あれは愚の病であつた」と言う。儒学についても、「濡儒庵先生」といわれるくらい孔子に心酔した時期があつた。ところがその後がらつと変わって行く。その辺が実に見事というか、あきれるところです。

京都帝国大学文学部初代学長を務めた狩野亨吉は、昌益に触れることによつて職を辞し、市井の人、庶民として生きることになつたと言つてもいいかと思ひます。ところがその狩野にして、埋もれていた昌益の原稿を初めて見たときに「この人は狂人ではないかと思つた」と言う。それもむべなるかなという気がします。いったんは仏教や儒教に非常に親近性を感じていたのに、振り返つて「あれは間違つていた」となぜ思うようになったのか。そのあたりをお話いただけますか。

**石渡** それは非常に難しい問題で、まだ本当のところは分かりません。たしかに昌益は若いころは仏門に入つて修行し、そこで悟りを開いて師匠から免許皆伝を与えられる。八戸へ移つてからは、「濡儒庵先生」あるいは「大医元公」と呼ばれるようになる。八戸で最初に受け入れられたときは、医者としてより、儒学に造詣の深い人として評価されたんです。ところが、あるときから、「仏教や儒教はおかしい」となつていく。そのきっかけは農民との出会いではないかと思ひます。医者として裸の人間を診たとき、上下貴賤はありえない。裸になればそこに何ら差はないわけです。ヨーロッパでも平等思想を持つ経済学者などには医師出身の人が結構いますし、昌益もそこで平等思想の一つのきっかけを得ているのではないか。

りなどは心の迷いだ」と転身して医学の勉強をします。当時の医学は儒学と結びついていました。医者としてそれなりの地位も名誉も腕も身につけた昌益は八戸に行き、町医者にもかかわらず、腕をかわれて藩命で藩の賓客を治療したり、家老などの医療相談にあずかるようになります。当時は患者のところへ医者が出かけていましたから、要するに、農民のところにも行けば藩主や家老のところにも行くという中で、住んでいる家やそこで供されるものの違いによつて、社会が非常に階級的なものだということを見たと見なければなりません。じゃあ、自分はどうなんだ。長男のみが家督を継ぐ江戸時代にあつて、百姓の次男は勉強して医者や学者になり成り上がるしかない。昌益はまさにそういう人物でした。故郷では兄が草分け百姓の安藤家を守り、社会を支えている。それに比べて自分は……と今までの生き方をとらえ返し、根源的な人間のありようを考えたいのではないかと思ひます。ただ、これは文献的に確認できることではありません。私としては、安藤昌益をそのような人物として見ているということです。

## 平等思想の源泉としての医学

**三浦** ノーマンも、昌益ががらりと変わったことについて、農民のありようをつぶさに見ていたこと、医者であつたことが大きいのではないかと書いています。洋の東西を問わず、医者、つまり人間の体や心に直接に接している人たちが平等や平和の思想を持つというのはとてもおもしろいですね。

**石渡** 安藤昌益の医学は従来の東洋の伝統医学に基づいています。日本の近代医学の突破口になつた解剖学をはじめ、西洋医学を全く知らなかった。彼が長崎に行ったことがあるかどうか昌益研究のテーマの一つですが、私は昌益は西洋医学には触れていないと思ひます。ただ昌益の思想形成の中で非常に



三浦衛

大きいのは、京都出身の長崎の税関吏であつた弟子を通して、オランダ社会に対して強い関心を持っていたところ。オランダにおける一夫一妻制や共和主義的な社会のあり方に関心を寄せ、もう一方で、自然と共生するアイヌ民族にも共感を寄せていた。それが昌益の思想の一つの引き金になっています。

もちろんそれだけではなく、昌益自身が当時の医者として人々を広く診ていたことも重要です。特に、人間の根源は食欲と性欲であり、人間の基本は性愛だと考え、産科学に対して非常に先駆的なことを言っています。例えば「排卵周期説」。一般的には産婦人科医・荻野久作が初めて言われていますが、実は安藤昌益はその一五〇年前、世界でも初めて説いています。また、人間は肉体だけではなく心を持った存在ということ、今という精神医学の開拓者でもありました。

東洋の医学は、基本的には国の長である皇帝、家の長である家長の病をどう治すかを問題にしてきました。いわば男性の内科疾患をどう治すかが医学の基本でした。しかし昌益は子どもをどう安全に産むのか、母親がどう難産を乗り越えるのかに医学の根本があると言います。「嫁して三年、子なきは去る」。つまり結婚して三年間子どもが生まれなければ女性は「石女」と呼ばれ、離婚してもよいという時代に、昌益は不妊の原因は女性だけではなく男性にもあつると言つて「石男」という言葉をつ

くります。彼の唱える「男女平等、万人平等」の根底には、やはり医者としてのものの見方があつたと思ひます。

身分制社会、階級社会の中で、平等に力点が置かれるのはある意味もつともですが、昌益の平等論は画一論ではない。要するに、個性がなければ社会は成り立たないとも言っているんです。「自分と同じだから」といつてそこに馴染んでいけない、「自分と違うから」と言つて憎んでいけない、一人ひとり違うんだ、という個性の問題を、平等の問題と一緒に言っている。こもすごいと思ひます。

## 学ばないの本義

**三浦** 先ほど紹介しましたが奈良本辰也さんは「三流の田舎学者」と昌益を評し、彼の学問の間違いを逐一指摘しています。

これを読んだとき僕は、田中正造が天皇陛下に直訴したときの新井奥遼の言葉「過ちを見て其仁を知る」(『新井奥遼著作集』第一巻)を思い出しました。論語の言葉としては、「過ちを觀て斯に仁を知る」です。過ちは過ちかもしれないけれども、むしろ、情が深くて共感し、思いやりの心が深すぎて過ちを犯すことがある。田中正造が天皇陛下に直訴した。それはルール違反かもしれないけれど、なぜ彼がそういうことをしたのかを見なければいけない。いち早くそのことを奥遼は書いています。

昌益は仏教や儒教に一時非常に親近していたにもかかわらず、がらりと態度を変え、批判どころか否定してかかつていく。先ほど石渡さんがおつしやつたように、それは疲弊している農民たちの姿を見てやむにやまれないことだつたと思ひます。仏教や儒教の理解に少々の間違ひがあつても、とにかく農民たちのことを思つて記述したのでしよう。

当時においてはこれだけの批判は公にできないですよ。だから、八戸の昌益に身近なところで、共感をもつて聞いてくれる人だけに話すことになり、余計に忘れられていくことになつた。それが時を経て、狩野亨吉の目に触れ発見される。間違ひは間違ひとして、そういう間違ひを犯してまでもなぜ強く主張したのか。その心を見ていくと、昌益という人間のおもしろさ、あるいはあつぱれさが見えてくるのではないかと思ひます。

**石渡** 私は奈良本辰也さんご本人と何度かお話ししたこともあるので弁護するわけではありませんが、奈良本さんは晩年、『統治真伝』の解説は書きすぎて、やはり昌益はそういうレベルの人間ではない」と明言されています(笑)。

厳しいのは吉川幸次郎さんです。安藤昌益の文章を読んで、「こんな無茶苦茶な漢文を書く人間の言っていることなんか、私は一切認めない」と、文章から否定されています。でもある意味それは昌益の名譽であり、そういう文章しか書けない人間が、非常に本質的なことを言っているのがすごい。だからこそ在野の意義があるのではないかと思ひます。私は大学を中退しましたが、今話に出た田中正造も「大学廃すべし」と言っています。「帝国大学の学士中、おおくは忍耐力の一つは卒業せり。恥を忍ぶ、侮辱を忍ぶ、側隱の心を失うを忍ぶ。醜汚を忍ぶ、人の財を奪うを忍び、人を殺すを忍ぶ。同胞兄弟に破廉恥を為すを忍び、国の亡びるを忍ぶ。この学生はこの忍耐力を卒業せり。地方教育、学生の精神を腐らす。中央の大学また同じ。学ばざるにしかず」と。要するに、人としての常識・人としての当たり前の感性を失うことに耐えることができた——卒業してしまつた、というのです。今の日本の国会や権力のありようを見てみると、国際的にこれほど情けない、恥多い権力はないと、この言葉が思い出されます。やはり在野の人たちが、普通の人たちがものを考へて、世の中を変えて

いくことが大切です。まだまだ社会全体には声が届かないかもしれませんが、やはりそこにしか真実はないのではないかと思ひます。

昌益の研究は、ほとんど大学の研究者とは関係のない、在野の昌益ファンが営々としてやつてきたものですが、私自身も、そういう人たちとつてきました。昌益の全集に携わり、「安藤昌益の会」も細々と続けています。八戸には二〇〇九年に安藤昌益資料館が開館しましたが、これも全く行政の力を借りず、八戸の心ある人たちがお金を出し合つて、昌益の資料を収集して発信しています。大館には「大館市の先人を顕彰する会」があり、千住には「安藤昌益と千住宿の関係を調べる会」ができています。

学びというのは大学で勉強すること、研究することがすべてではなく、人生至るところに学ぶところがある。安藤昌益は、膨大な書物を読みながら、本質的なものは何かを常に考え、目の前の自然や社会をリアルに見ることの中に真実が発見できるといふ考えでした。独学ですから不十分なところはあつても、やはり、二一世紀を生きている私にとつて先達、先生となる人です。今後も昌益に学びながら、自分の生き方を模索していくつもりです。

**三浦** 石渡さんのお話の中で「世直し」という言葉がありました。教育学者で宮城教育大学の学長だつた林竹二の言葉に、「学んだことの証しは、ただ一つで、何かがわかることである」というものがあります。それは自分が変わることでもあり、世直しということにも関係するのでしょうか。変わるための学びはともなう難しいことですが、それぞれの立場で学んでいくことが、生きることにつながっていくのだと思ひます。最初に申し上げたとおり、春風社はますます「春風と野」をテーマに学術書を世に問うていき、一人でも多くの人の学びを裨益するような出版物を刊行していきたいです。今日はどうもありがとうございました。■

# 哲学・思想・宗教



### 死ぬ権利はあるか

安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値

有馬斉 (横浜市立大学准教授)

医療技術が進展するなか、人の死の望ましいありかたとは？ 死ぬ権利について擁護派と反対派の議論を整理し、倫理的・政策的な判断の基礎となる考えを提示する。

四六判上製・五五八頁 定価(4300円+税)  
ISBN 978-4-86110-624-8 一刷



### 「ただ人間であること」が持つ道徳的価値

相互に尊重し合う自由で平等な個人が築く民主主義

浜野研三 (元関西学院大学教授)

### キルケゴールの実存解釈—自己と他者

河上正秀 (筑波大学名誉教授)

キルケゴールはいかに受容されてきたのか。レヴィナス、デリダ、ウイトゲンシュタイン、田辺元らによる解釈の歴史をたどり、その思想的意義を明らかにする。

ISBN 978-4-86110-597-5 ¥3500

### 深い河の流れ—宗教多元主義への道

長谷川 (間瀬) 恵美 (桜美林大学准教授)

キリスト教伝道における異文化内開花「実生」とは何か。遠藤周作とJ・ヒックを道標としつつ、日本のカクレクリシチャンを例に宗教多元主義のあり方を探る。

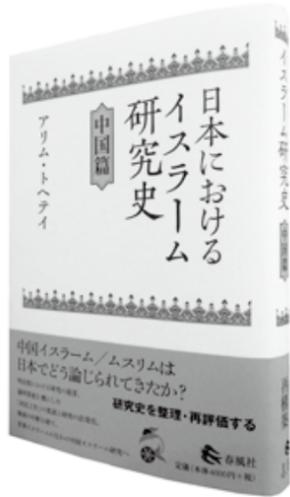
ISBN 978-4-86110-604-0 ¥2200

## 日本におけるイスラーム研究史

アリム・トヘテイ (東北大学助教)

中国イスラーム・ムスリムは日本でどう論じられてきたか？ 明治の萌芽期から、満州事変を機にした「回民工作」と研究の活発化、戦後の中断を経て現代に至る研究史を整理・再評価する。

四六判上製・三三三頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-632-3



### そこには何かある—「この自分」が在るといふ不思議

牟田隆郎 (元聖学院大学教授)

なぜ「この自分」なのか。なぜ「この人生」なのか。さまざまな角度から、疑問「思考」分析を繰り返して、自分の存在の秘密を解き明かす哲学エッセイ。

ISBN 978-4-86110-612-5 ¥1800

### 人間形成としての教養—ハンガリー、フィンランド、日本におけるトイックの理念の受容と

将来展望 高橋輝暁 (立教大学名誉教授) 編

「教養」のあり方を、ドイツをはじめとする思想史や教育史、文化概念の問題、天野貞祐の理念などから多角的に考察。

ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2000

### 律から密へ—晩年の慈雲尊者

秋山学 (筑波大学教授)

江戸時代の真言宗の高僧、慈雲はいかに「妙法蓮華經」を受容したのか。最晩年の直筆本「法華陀羅尼略解」をもとに慈雲の思想を再検討。慈雲における密教と顕教の台を明らかにする。

ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

### 法華経経解(ハングル訳注・法華経要解)上

河瀬幸夫 (研究者)・金星周 (東国大学校教授) 訳

『妙法蓮華經』中の「法華經」と北宋の戒環著「法華経要解」の中世韓国語による翻訳文と対照した日本語訳。中・近世の東アジア漢字文化圏における「法華經」理解の精髄。

ISBN 978-4-86110-549-4 ¥6500

# 日々の風

暮らしのなかの哲学

長谷川宏

## 19 新堂の大日如来

四十五年間続く春先の奈良仏師像めぐりで、数年ぶりに忍辱山・円成寺を訪れた。お目当ては二〇一七年に新設された相應殿とそこに安置される運慶作の大日如来像だ。

これも新設の山門をくぐり、やや鄙びた浄土庭園を池に沿ってしばらく歩き、右手の石段を登る。石段の上に拝観受付所があり、相應殿はそこを左に折れた先の、やや奥まった所に設置されていた。

堂の玄関からは大日如来像は見えない。靴をぬいで板の間上がり少しく行くと、右手に七、八メートル四方の一室があり、その中央奥に若き運慶の名作がきりつと智拳印を結んで静坐している。見た瞬間、気の引き締まる思いがするが、それも一時のことで、和風の明るく落ち着いた部屋に置かれた仏は、見る者の緊張感を少しずつ解きほぐしてくれる。

像は、彫刻家として生きていこうとする青年仏師の魂が乗りうつったような意欲作だから、緊張感が消え失せることはない。が、障子や格子が適所に配された瀟洒な和室のやわらいだ雰囲気と、像の緊張感とがほどよく調和して、像は外へと開かれていく感じなのだ。

それだけではない。部屋の設えが像を見やすくしているのが喜ばしい。像の背面はわずかにクリーム色の混じる白い壁と障子で仕切られ、残りの三面はガラス張りとなっているが、このガラス板が床から一メートルほどの高さしかなく、像をガラス越しでなく直に見ることが出来る。しかも、像の右側面と左側面は、光背と垂直に向き合えるほどにうしろに回りこむことができ、像の見所の一つである後頭部から背中にかけての微妙な曲面の美しさをじっくりと楽しめる。

振り返れば、わたしの奈良めぐりの四十五年間でこの像は三度、居場所を変えている。最初が本堂の左手前の隅、次いで本堂の向かいの多宝塔に移され、二年前の移動が三度目だ。大日如来像の居場所としては、いまの相應殿がもっともふさわしい。

古くから奈良の旅を共にしてきた友人が、この堂とこの像なら丸一日ここにいても楽しめるな、とつぶやいた。深く頷けることばだった。

(哲学者)

# 文芸評論



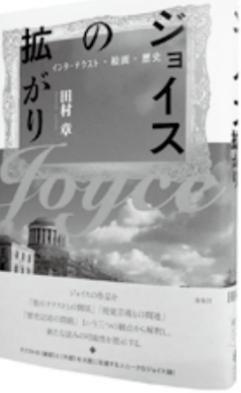
### ジョイスの拡がり

インターテキスト・絵画・歴史

田村章 (金城学院大学教授)

「他のテキストとの関係」「視覚芸術との関連」「歴史記述の問題」という三つの観点から解釈し、新たな読みの可能性を提示。テキストの(細部)と(外部)を大胆に往還するユニークなジョイス論！

四六判上製・三三六頁 定価(3500円+税)  
ISBN 978-4-86110-625-5



ジョイスの拡がり

高山宏氏推薦！ 幻想文学を「ジャンル」(分野)ではなく「モード」(様式)として捉えなおすことを提唱した幻想文学論の古典。本邦初訳。

四六判上製・三七三頁 定価(3700円+税)  
ISBN 978-4-86110-622-4



### 未完のカミュ

絶えざる生成としての揺らぎ

阿部いそみ (東北文科大学短期大学部教授)

人間は、完結せず常に現在を生き続ける存在——「生きる」ことに関わる本質的感覚に訴え、人々を魅了し続けるカミュ。「未了性」という視点から作品を分析し、その魅力を改めてひもとく。

四六判上製・四〇〇頁 定価(3700円+税)  
ISBN 978-4-86110-623-1



D.H.ロレンスの雌牛

法華経講解(ハングル訳注・法華経要解) 下

河瀬幸夫・金星周訳 ISBN 978-4-86110-577-7 ¥5500

哲学断章—存在—とは・光

北岡崇(元福山女子大学教授) ISBN 978-4-86110-583-8 ¥3700

カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅

沢龍文・中澤武・山根雄一郎訳 ISBN 978-4-86110-479-4 ¥9000

巫者のいる日常—津軽のカミサマから都心の

スピリチュアルセラピストまで 村上晶 ISBN 978-4-86110-558-6 二刷 ¥3500

哲学はじめの二歩 楽しむ/働く 立正大学

文学部哲学科編 楽しむ ISBN 978-4-86110-541-8 働く ISBN 978-4-86110-542-5 各 ¥1500

哲学はじめの二歩 全四巻函入

立正大学文学部哲学科編 ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥2241

鈴木拙の「日本的靈性」—エマヌエル・ス

ウェーゲンホルグ新井奥遼との対比から 那須理香 ISBN 978-4-86110-554-8 ¥4500

教えることの哲学 ジョン・パスモア 著/

小澤喬(東京理科大学名誉教授)訳 ISBN 978-4-86110-376-6 ¥4100

奥遼論集成 春風社編集部編

ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700

おろすいポケット 新井奥遼語録抄 三浦衛

・コルダニエル編 白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1 黒表紙 ISBN 978-4-86110-455-8 各巻 ¥2200

朝鮮儒学の巨匠たち

韓亨祚著/片岡龍監・解説/朴福美訳 ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

姿を変えたキリスト—みなし子を育てたシス

ターたち 菊地章太(東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-475-6 ¥2200

思想家としての石橋湛山—人と時代

山口正(石橋湛山記念財団評議員) ISBN 978-4-86110-472-5 二刷 ¥3000

徂徠と崑崙 末木恭彦(駒澤大学教授)

ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500

随想 西田哲学から聖霊神学へ

小野寺功(清泉女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-464-0 ¥3500

エコ・ファンタジー—環境への感度を拡張する

ために 山田利明(東洋大学名誉教授・河本英夫(東洋大学教授)編) ISBN 978-4-86110-468-8 ¥3500

越境する哲学—体系と方法を求めて 村上勝

三(東洋大学名誉教授・東洋大学国際哲学研究センター編) ISBN 978-4-86110-478-7 ¥5500

死生学—死の隠蔽から自己確信へ

岩崎大(東洋大学研究助手) ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982

虚構の形而上学—「あること」と「ないこと」

のあいだで 中村靖子(名古屋大学教授)編 ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

サルトルとマルクス II

北見秀司(津田塾大学教授) ISBN 978-4-86110-213-4 / ISBN 978-4-86110-214-1 各巻 ¥3333

リヒバリーションの哲学あるいは哲学のリ

バリーション 稲垣論(東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-303-2 二刷 ¥2381

超越する実存—人間の存在構造と言語宇宙

棚次正和(京都府立医科大学教授) ISBN 978-4-86110-391-9 ¥4500

横超の倫理—ローティ、ハイエク、シンガー

を超えて 谷口隆一郎(聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333

直接知の探求—西田・西谷・ハイデッガー・

大拙 松丸壽雄(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000

風についての省察—絶対無の息づかいをもと

めて 松山康國(関西学院大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-466-0 ¥3333

〈文化〉の思想—現代日本の位置から

西欣也(甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200

犠牲と身代わり—記憶できないものをめぐ

って 長田陽一(京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-275-2 ¥2200

心理臨床と脱構築の経験—〈他者〉をめぐ

って 長田陽一(京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-345-2 ¥2400

小林秀雄とワイトヘンシュタイン

中村昇(中央大学教授) ISBN 978-4-86110-106-9 ¥2500

仮説法の倫理学—ホー・バース・ハイデッガー

村上隆夫(群馬大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-309-4 ¥5600

翻訳と

アダプテーションの倫理

ジャンルとメディアを越えて

今野喜和(静岡大学教授)編

ジャンルやメディアの区分が消滅しつつある現代において、オリ

ジナル/ソースに忠実であるという規範はどこまで有効なのか。

横断的・重層的に考察することで、新たな倫理問題を提起する。

四六判上製・四二八頁 定価(3500円+税)

ISBN 978-4-86110-621-7



D・H・ロレンスと

雌牛シーズン

ロレンスの神秘主義をめぐって

ウィリアム・ヨーク・ティンダル 著

木村公一(早稲田大学名誉教授)

倉田雅美(東洋大学名誉教授)

小林みどり(元東海大学准教授)訳

ロレンスが飼っていた雌牛との神秘的な象

徴的な関わりを通じて、反理知主義、反科

学主義の傾向をもつ個人の宗教なるものの

確立に至った過程を綿密に検証した思想的

評伝。

四六判上製・三三八頁 定価(4000円+税)

ISBN 978-4-86110-627-9

松本清張の薬師

南富鎮(静岡大学教授) ISBN 978-4-86110-557-9 ¥2700

キャサリン・マンズフィールド

—荒地を吹き渡る風のように自由に 手塚

裕子(川村学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-

86110-553-1 ¥3200

文学都市ダブリン—ゆかりの文学者たち

木村正俊(神奈川県立外語短期大学名誉教授)編

ISBN 978-4-86110-518-0 ¥3700

カホーティ小説の詩的特質—音と文彩

大園弘(九州国際大学教授) ISBN 978-4-86110-521-0 ¥3200

バルザックの文学とジェンダー—女性作家との

比較から分るまで 東辰之介(駒澤大学准教授)

ISBN 978-4-86110-533-3 ¥3600

スコットランド、一八〇三年—ワースワズ兄妹

と「コールド」の旅 安藤潔(関東学院大学教授)

ISBN 978-4-86110-529-6 ¥2700

帝国と文化—シェイクスピアからアントニオ

ネグリまで 江藤秀一(筑波大学名誉教授)編

ISBN 978-4-86110-517-3 ¥3500

幻想と怪奇の英文学 東雅夫(アンソロジー、

評論家)・下楠昌哉(同志社大学教授)編 ISBN 978-4-86110-404-6 二刷 ¥2700

幻想と怪奇の英文学 II—増殖進化編 東雅夫・下楠昌哉編 ISBN 978-4-86110-516-6 ¥3200

異文化理解とパフォーマンス—Border Crossers

松田幸子、笹山敬輔、姚紅編著 ISBN 978-4-86110-499-2 ¥4500

ハブリック圏としてのイギリス演劇—シェイク

スピアの時代の民衆ドラマ 中村友紀

ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000

自著を語る

生澤繁樹

『共同体による自己形成

—教育と政治のプラグマティズムへ』



ある中学校へ訪問した際、校長先生から「どんな研究をしているの」と訊かれました。自己が共同体の中で形成される

ことの意味だと答えると、「そんなあたりまえなことを研究する必要があるのでですか」と。しかし本当にそうでしょうか。社会を考

える原理を構想するうえで、自由で平等な個人が抽象的に前提とされることがあります。そこでは人間が共同

体の中で育まれる「具体的個人」であることはあたりまえではなく、理論的思考を妨げる足かせともなりえてきました。逆に、共同体の中で自己が育まれるというあたりまえな前提

のもと、一人ひとりがまさに異質で具体的であることを、教育はいつたどこまで十分に受けとめる営みとなりえてきたかの疑問もあります。この研究をはじめたとき、教育学の領域では、教育の市場

化や自由化のもとの地域・階層間の格差が話題となりました。問題は、環境や境遇の違いから生じる不平等や不正です。しかし同じ教育と環境を用意すれば平等は実現されるのか。一人ひとりが身をおく家庭、学校、地域社会など共同

体の在りようはそれぞれ異なります。とすれば、教育において目指される「平等」や「公正」とは何なのか。社会正義の問いは、〈正しさ〉についての問いである以上に、そもそもどのような「平等」や「公正」を求めるのかとい

う〈善さ〉にかかわる問いともいえます。そうした価値・規範の準拠棒や参照点を提供している共同体に、私たちは支えられ、救われることもあるでしょう。しかし、ときに押しつけがましく、またときに異なるものを括りだし、疎ましく、離脱したいと感じられることさえあるこの共同体というものをどう見るか。

教育のことは教育を考えるだけでは見えてこないといわれます。社会を見るからこそ理解できる教育のかたちがあるとすれば、反対に、教育を考えるからこそ見えてくる社会のかたちもあるのではないかと。本書には、具体的な子どもも大人も家庭も学校も地域社会もでてきません。けれども、教育の現実から乖離しているとは思いません。共同体による自己形成という課題を通して具体的な現実を洞察するきっかけづくりの一助にさせていただければ幸いです。(9頁に本の紹介)

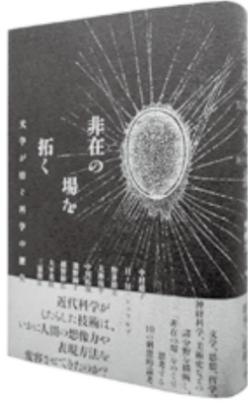


**黙って踊れ、エレクトラ**  
ホフマンスタールの言語危機と日本

関根裕子 (早稲田大学他非常勤講師)  
「西洋」から「東洋」へ、「言葉」から「身体」へ——代表戯曲の一つ『エレクトラ』や、その日本初演をめぐる書簡から、ホフマンスタールが希求した「オリエンタル」「日本」の姿、20世紀初頭の異文化交流の在り様を探る。  
A5判上製・三九六頁 定価(4200円+税)  
ISBN 978-4-86110-637-8

**非在の場を拓く**  
文学が紡ぐ科学の歴史

中村靖子 (名古屋大学教授 編)  
近代科学がもたらした技術は、いかに人間の想像力や表現手段を変容させてきたのか? 文学、思想、哲学、神経科学、美術史などの諸分野を横断し、「非在の場」をめぐり思考する10の刺激的論考。  
四六判上製・三三〇頁  
定価(3500円+税)  
ISBN 978-4-86110-635-4



中世英語文学II—その言語・文化の特質  
菊池清明 (元立教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-428-2 ¥4500

中世英語文学II—The Sound of Literature  
菊池清明 (元立教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-488-6 ¥7500

秘密のラティガン—戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子 (東京芸芸大学講師) ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」—英国史劇とブルゴニニコ公国 大谷伴子 ISBN 978-4-86110-419-0 二刷 ¥2700

交錯する戦争の記憶—占領空間の文学  
黄益九 (在日コリアン研究所)  
ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

名譽革命とイギリス文学—新しい言説空間の誕生 富樫剛 (フエリス女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000

シモーシ・エリオットの異文化世界  
高野秀夫 (駒澤大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333

トルストイと生き  
藤沼賢 (早稲田大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762



**アメリカは日本文化をどう読んでいるか**

村上春樹 吉本ばなな、宮崎駿、押井守  
芳賀理彦 (敬愛大学准教授)  
日本の現代文学やアニメはアメリカでどのように受容され、日本のイメージはどのように形成されているのか。翻訳や批評の分析を通して、他文化理解の困難さを明らかにする。  
四六判上製・二三八頁 定価(3000円+税)  
ISBN 978-4-86110-605-7

**戸籍の謎と丸谷才一**

ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800

乱歩彷徨—なぜ読み継がれるのか  
紀田順一郎 (評論家・作家)  
ISBN 978-4-86110-284-4 二刷 ¥1905

作品は「作者」を語る—アラビアン・ナイトから丸谷才一まで ソーントン不破直子・内山加奈枝 編著 ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857

朝鮮神話の源流—「ハリ公主神話」と「タンタン神話」を巡って 金香淑 (元白大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500

永井荷風 ソライズムの射程—初期作品をめぐって 林信蔵 (福岡大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-222-6 ¥3619

アントニオ・タブッキ 反復の詩学  
花本知子 (京都外国語大学准教授) ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

Beowulf  
橋本修一 (千葉工業大学教授)  
ISBN 4-86110-060-7 ¥2000

カズオ・イシグロ—「日本」と「イギリス」の間から 莊中孝之 (京都外国語短期大学教授) ISBN 978-4-86110-255-4 二刷 ¥3000

**翻訳ピンチ!** 中条省平 SHOHEI CHUJO

23

ムルソーなんか知らないよ

前回の続きです。対談でご一緒した河野通和さんが2015年につかこうへの『熱海殺人事件』の再演を見に行ったときの話です。  
『熱海殺人事件』は、田舎出身の工員・大山金太郎が犯した凡庸な殺人のドラマです。その取調べで、刑事の熊田留吉は何とかして金太郎を立派な殺人犯にしてやるために、カミュの小説『異邦人』の主人公、ムルソーが行った殺人を模範例にあげて、ヨーロッパの不条理を超えろ、と叱咤します。それくらい、太陽がまぶしすぎるがゆえの不条理な殺人という『異邦人』の主題はよく知られています。  
ところが、2015年の『熱海殺人事件』では、この『異邦人』の殺人への言及がきれいさっぱりなくなっていたのです。なんで? 河野さんは呆然としました。その話を聞いた私も啞然としました。あのくだりは、『熱海殺人事件』の最高の見せ場であり、観客の笑いが炸裂する場面だったはずなのに。  
演出を担当した劇団☆新感線のいのうえひでのりは、その理由を、「いまだカミュだのムルソーだのといっても、若い

人は誰も知らないから」と語ったというのです。  
と想像していたら、橋本治が『異邦人』の落語化に手を着けました。主人公はムル三。おっ母さんがモロッコの養老院で死んだというので、隣に住む礼衛門という男に、デートするはずだった茨城生まれの巨乳娘・マリーへの伝言を頼み、大家の隠居から線香代をもらって、京浜東北線の大森駅前からモロッコ行きのバスに乗ります。ところが「文藝」連載の2回目、ムル三がモロッコ三丁目の養老院前でバスを降りたところで、橋本治が死んでしまいました。  
ショックでした。しかし、だとしたら、と私は逆に勇気が出てきました。いまこそ、「今日、ママンが死んだ」で余りにも有名な窪田啓作訳(約70年前)の呪縛を解いて、フレッシュな新作小説として『異邦人』の新訳を世に問うべきではないのか、と。  
(仏文学者)



**文学**



**説得されて**

ジェイン・オースティン 著  
藤田永祐 (獨協大学名誉教授) 訳

周囲に説得されて婚約を解消したアンは八年ぶりにウェントワース大佐と再会、物語は静かに動きだす……。細やかな注釈を載せたケンブリッジ版(二〇〇六年)を底本とした、21世紀のジェイン・オースティン。四六判仮フランス装・三六四頁 定価(2500円+税)  
ISBN 978-4-86110-620-0

**イヴの娘**

オノレ・ド・バルザック 著  
宇多直久 (滋賀大学元講師) 訳  
モダンスタイルで装飾された銀行家の室内、化粧券々たる女性たちのあらゆる富を動員した貴族社会の大夜会、伯爵夫人にふりかかる野心家の恋……パリス流社会に「挑戦」する作家の物語。80年ぶりの新訳!  
四六判上製・三四四頁 定価(2100円+税)  
ISBN 978-4-86110-628-6



ペーター・フール—現代詩への軌跡  
土屋洋一 (元愛知大学教授)  
ISBN 978-4-86110-481-7 ¥2200

フィリップ・ラーキン—愛と詩の生涯  
高野正夫 (駒澤大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-477-0 ¥2200

T・S・エリオットの詩を解説する  
滝沢博 (元高岡法科大学教授)  
ISBN 978-4-86110-476-3 ¥2200

「女の子」という運動—ワイマール共和国末期のモダンガール 田丸理砂 (フエリス女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-443-5 ¥3000

神奈川ゆかりの作家たち  
最賀進 (S.A.I.G.A.代表)  
ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500

フロント小説における病いと看護  
川崎明子 (駒澤大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-427-5 ¥3500

敗戦・憂国・東京オリンピック—三島由紀夫と戦後日本 洪潤約 (誠信女子大学校助教授) ISBN 978-4-86110-463-3 ¥3000

美しき汚れ—アサー・マンビーとウィクトリア朝期女性労働者の表象 吉本和弘 (県立広島大学教授) ISBN 978-4-86110-442-8 ¥3000

中世英語文学I—その言語・文化の特質  
菊池清明 (元立教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-428-2 ¥4500

中世英語文学I—The Sound of Literature  
菊池清明 (元立教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-488-6 ¥7500

秘密のラティガン—戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子 (東京芸芸大学講師) ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」—英国史劇とブルゴニニコ公国 大谷伴子 ISBN 978-4-86110-419-0 二刷 ¥2700

交錯する戦争の記憶—占領空間の文学  
黄益九 (在日コリアン研究所)  
ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

名譽革命とイギリス文学—新しい言説空間の誕生 富樫剛 (フエリス女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000

シモーシ・エリオットの異文化世界  
高野秀夫 (駒澤大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333

トルストイと生き  
藤沼賢 (早稲田大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762

戸籍の謎と丸谷才一  
ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800

乱歩彷徨—なぜ読み継がれるのか  
紀田順一郎 (評論家・作家) ISBN 978-4-86110-284-4 二刷 ¥1905

作品は「作者」を語る—アラビアン・ナイトから丸谷才一まで ソーントン不破直子・内山加奈枝 編著 ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857

朝鮮神話の源流—「ハリ公主神話」と「タンタン神話」を巡って 金香淑 (元白大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500

永井荷風 ソライズムの射程—初期作品をめぐって 林信蔵 (福岡大学准教授) ISBN 978-4-86110-222-6 ¥3619

アントニオ・タブッキ 反復の詩学  
花本知子 (京都外国語大学准教授) ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

Beowulf  
橋本修一 (千葉工業大学教授) ISBN 4-86110-060-7 ¥2000

カズオ・イシグロ—「日本」と「イギリス」の間から 莊中孝之 (京都外国語短期大学教授) ISBN 978-4-86110-255-4 二刷 ¥3000

写真・音楽・芸術



躍動  
横浜の若き表現者たち

横浜を拠点に、新しい「なにか」を創作する若者たち。今まさに芽吹きの際にある、映画監督、演奏家、画家など、十、三十代の若手表現者十四名の思いが綴られたインタビュー集。  
四六判並製・三〇〇頁 定価(1800円+税)  
ISBN 978-4-86110-640-8



横見葉介  
横浜で踊る者たち  
横浜の若き表現者たち

ホベルト・ブルー・マルクスの庭にて  
ジャック・レナール 監修  
荒井芳廣 (大妻女子大学名誉教授 訳)  
「庭園とは、要するに、通常は用いられない素材を用いて絵画作品を組織し構成するひとつの方法でした」。造園・造景芸術の巨匠ブルー・マルクスの思想と偉業をめぐる論考とインタビューの集成。  
A5判上製・二〇〇頁 定価(3200円+税)  
ISBN 978-4-86110-594-4

浅草 2011-2016 一六区ブロードウェイ 日本人の肖像 初沢克利 (写真家)  
ISBN 978-4-86110-547-0 ¥7000  
吉住小三代 (長順吉住会)  
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

茶艶―我が師有馬頼底殿下 小堀宗慶御家元  
堀江添子 (茶人)  
ISBN 978-4-86110-567-8 ¥3500  
石巻片影  
三浦衛 (春風社代表) 著・橋本照嵩 (写真家) 写真  
ISBN 978-4-86110-530-2 ¥2500  
石巻 2011.3.27 ~ 2014.5.29  
橋本照嵩 (写真家)  
ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500  
【新版】北上川  
橋本照嵩 (写真家)  
ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500  
表象の京都―日本映画史における観光都市のイメージ 須川まり (追手門学院大学特任助教)  
ISBN 978-4-86110-537-1 ¥3000  
「出会い」という名の劇場―演劇に生きて  
岡田正子 (演出家・翻訳家)  
ISBN 978-4-86110-551-7 ¥2100  
母のアルバム  
伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800  
父のアルバム  
伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

利根川を往く  
堀絢 (写真家) 撮影  
ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800  
アンドレ・バサン―映画を信じた男  
野崎敏 (東京大学教授)  
ISBN 978-4-86110-456-5 ¥2300  
物語のないアニメーション―ノーマン・マクラレンの不思議な世界 栗原詩子 (西南学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500  
増補改訂版としての身体―土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ 三上賀代 (京都精華大学教授)  
ISBN 978-4-86110-465-7 ¥3600  
フアン・メンデルズゾーン・ヘンゼル ウテ・ビュヒター・レーマー 著/宮原勇、米澤孝子 訳  
ISBN 978-4-86110-421-3 ¥2300  
長唄の世界へようこそ―読んで味わう、長唄入門 細谷朋子 (研究家)  
ISBN 978-4-86110-400-8 三刷 ¥3400  
映画はやめる―パトリス・ロコント、自作を語る P・ロコント著/H・プロロンジヨ聞き手/桑原隆行 訳  
ISBN 978-4-86110-433-6 ¥3800  
クララ解体  
小関与四郎 (写真家)  
ISBN 978-4-86110-261-5 ¥1500  
フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユートピア―キュビスムからフランス人民戦線まで  
山本友紀 訳  
ISBN 978-4-86110-405-3 ¥4500  
かぼちゃの下で―ウガンダ戦争を生きる子どもたち 桜木奈央子 (写真家) 写真・文/伊藤氏貴 解説  
ISBN 978-4-86110-259-2 ¥1800  
世界写真紀行―美しい自然と文化を訪ねて (海外編・国内編) 渋谷興一  
ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500  
ドアの映画史―細部からの見方、技法のリテラシー 吉田暉 (元京都産業大学教授)  
ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800  
アンヘリカの選択  
丸岡永乃 (画家・詩人)  
ISBN 978-4-86110-337-7 ¥1800  
ハラに染みるせ―天才ジャズ本  
安原顯 (スパーエディター)  
ISBN 4-921146-62-4 ¥2800  
邦訳「ガリヴァー旅行記」書誌目録  
松菱多津男 (会社社長)  
ISBN 978-4-86110-276-9 ¥4600  
OTHER VOICES 東大全共闘・68―70  
平沢豊 (編集者)  
ISBN 4-86110-026-7 ¥2800



孤独な殿様  
リン・トン・不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
時の経過の意味とは――? 天正大地震から四百年、奥飛騨の小村と東京渋谷の歓楽街を往来する、謎の殿様をめぐる物語。時空を超え、多彩なストーリーテラーによりかたりつむがれてゆく。  
A5判上製・二八頁 定価(1500円+税)  
ISBN 978-4-86110-617-0

古英語叙事詩『ベール・オウルフ』―クレバー第4版対訳 吉見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳  
最新の校訂を経た原文を底本とし、入念に彫琢された日本語で読む、最新の英和対訳。「フィン挿話」に関連する断片詩「フィンスブルクの戦い」も併載。  
ISBN 978-4-86110-572-2 ¥4000  
鐘の音が響くカフェで  
ポール・ヴァッカ著/田村奈保子 (福島大学教授) 訳  
文学好きの母の望みは《僕》が作家になること。『失われた時を求めて』を換骨奪胎し、人生と文学への愛を謳う。  
ISBN 978-4-86110-606-4 ¥2500  
トロイア戦争の三人の英雄たち―アキレウスとアイアスとオテッセウス  
川井万里子 (東京経済大学名誉教授)  
それぞれの個性をもった三人の英雄を軸に、「イリアス」などをとくに再構成した、一気に読めるトロイア戦争の物語。  
ISBN 978-4-86110-613-2 ¥2500  
バルサク王国の裏庭から―リュジェリーの「秘密」と他の作品集  
宇多直久 (元滋賀大学講師) 編訳  
バルザックの歴史小説「リュジェリーの秘密」の新訳と、この小説に至る私信、小品、断片等を執筆順に収録。  
ISBN 978-4-86110-544-9 ¥2500  
中世英語文学III  
中世イギリスロマンスガウェイン卿と緑の騎士  
菊池清明 (元立教大学教授) 訳  
14世紀に成立した中世イギリスロマンスの新訳。多彩で変化に富んだ原文が格調高い日本語でよみがえる。  
ISBN 978-4-86110-579-1 ¥3400  
画文集 旅の貼り絵  
安田彰 (元亜細亜大学教授)  
旅や遊びに興じれば、新たな世界と自分に出会う。日本の名所や風習、世界各国の人々とくらしを見つめるエッセイに、詩情あふれる切り絵を添える。  
ISBN 978-4-86110-546-3 ¥1750

鎌倉三猫物語  
ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500  
八月の瓜―母へ 彭学明 著/立松昇一 (拓殖大学教授)・舟山優士 (翻訳家) 訳  
ISBN 978-4-86110-520-3 ¥2500  
鎌倉三猫物語  
ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500  
クリスマス・キャロル チャールズ・デイケンス 著/井原慶一郎 (鹿児島大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-474-9 ¥1500  
スウェーデン民話名作集 藪下統一 訳  
III ISBN 978-4-86110-339-1  
IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905  
いなも同然だった男 パトリス・ロコント 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-458-9 二刷 ¥1800  
愉しみは最後に―パトリス・ロコント、ダヴィッド・テカンヴィル 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800  
エドワード・トマス訳詩集  
吉川朗子 (神戸市外国語大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000  
エルビー・メルゲンと七人の太陽―モンゴルのいつたえ集 塩谷茂樹 編訳/Ya・パダムハインドラム 執筆  
ISBN 978-4-86110-338-4 ¥1600  
ことばのホトラック  
大竹昭子 (作家) 編  
ISBN 978-4-86110-310-0 ¥1800  
クリス・ホルディック選 コシツク短編小説集  
石塚則子 (同志社大学教授) 他 編訳  
ISBN 978-4-86110-298-1 ¥3500  
お爺ちゃんとお爺  
オタ・フィリップ 著/北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500

しりあがり寿 mini  
帰ってきた大河 21 一騎打ち



戦況は一進一退であった。要衝の地をめぐる両軍が相まみえるのは何度目のことか。前回は両軍の将、上田信謙と武杉玄信が一騎打ちをするというほどの熱戦だった。武杉、上田両軍はまるで旧知の友が戯れるようにお互いの国の運命を賭して戦っている。と、上田軍の後方からどよめきが聞こえた。

「敵お持ちなさい」  
「敵ーおのののー」

見ると、上田信謙その人が武田陣に向け馬を駆っている。周囲はあつげにとられその無謀な突撃を見守っていた。

と、武杉陣からも同様のどよめきが聞こえる。二つの巨星がその引力で引かれるように再びの一騎打ちを演じるのか！これが最後とばかり、直江が主君の無謀を止めに馬を寄せる。謙信はニヤリと笑い、言った。「だって、二人きりになりたいんだもの♡」

見ると小脇になにやらカワイイプレゼントを抱えている。

「さっ敵ー！ まさかー！」

言葉を失った両軍が見守る前で、二人の将は仲良く馬を並べ近くの茂みに消えた。

横浜市立大学新叢書

東洋英和女学院大学  
社会科学研究叢書

人生の請求書

石橋幸子 (春風社専務)  
ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300

カフェの女主人

レイモン・ジヤン 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-356-8 ¥2200

モーツァルトの息子

ジャック・トゥルニエ 著／高井道夫 (元上智大学教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-242-4 ¥2200

空にあがったハイエナ ケニア・キクユの民話

集 杜由木  
ISBN 978-4-86110-301-8 ¥1600

カレワラ物語—フィンランドの国民叙事詩

キルステイ・マキネン 著／荒牧和子 訳  
ISBN 4-86110-034-8 ¥1800

愛の叙事詩 ハルダイヤン物語 ミシエル・ゼ

ヴァノ 著／鈴木憐男 (神戸松蔭女子学院大学名誉教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-223-3 ¥2800

横浜の時を旅する—ホテルニューグランドの

魔法 山崎洋子 (作家)  
ISBN 978-4-86110-296-7 三刷 ¥1600

法隆寺

青江舜一郎 (劇作家)  
ISBN 978-4-86110-225-7 ¥2800

みらいのゆくすえ

しりあがり寿 (漫画家)  
ISBN 978-4-86110-294-3 ¥1600

マハーヴァキナまたは巫山の夢

三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-342-1 ¥1957

父のふるさと—秋田往來

三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905

出版は風まかせ—おとぼけ社長奮闘記

三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300



コミュニケーション事典 伊藤守・小泉秀樹・三本

松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・

日高昭夫・吉原直樹 編  
コミュニケーションの過去・現在・未来—一五の

大項目内に総四一七項目、執筆者二八四名に  
よる専門知・実践知の集大成。  
ISBN 978-4-86110-538-8 ¥25000

横浜市立大学新叢書

東洋英和女学院大学  
社会科学研究叢書

世界のミュージカル・日本のミュージカル

岩崎徹 (横浜市立大学准教授)・渡辺諒 (早稲田大  
学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-570-8 ¥2500

資料を見て考えるホロコーストの歴史

ヴァンゼー会議記念館 編著／山根徹也・清水  
雅大 訳  
ISBN 978-4-86110-461-9 ¥2000

韓国の財政と地方財政

鞠重編 (横浜市立大学教授)  
ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000

レリキオ—《宗教》の起源と変容

三上真司 (横浜市立大学教授)  
ISBN 978-4-86110-452-7 ¥3000

日中間戦争と中国文学者—郁達夫、柯靈、

陸蠡らをもめぐって 鈴木正夫 (横浜市立大学名誉  
教授) ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3500

天狼俳句の英訳—誓子・敏雄・綾子

古平隆 (横浜市立大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-384-1 ¥3000

過去の再演を越えて—精神的分析的ロール・プ

レイング 川崎政道 (横浜市立大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000

読んで愉しむイギリス文学史入門

白井義昭 (横浜市立大学名誉教授、立正大学教授)  
ISBN 978-4-86110-372-8 四刷 ¥1500

普仏戦争—籠城のバリ 132日

松井道昭 (横浜市立大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-373-5 ¥3000

発信型 日本人が使いこなせないフランス基

本単語小辞典 久松健一・Michel Gonçalves  
ISBN 978-4-86110-563-0 ¥2500

フランス語名詞・動詞連語辞典

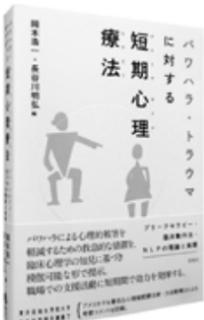
石川三千夫 (桜美林大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-536-4 ¥3500

フランス語名詞・動詞連語辞典

田所清克 (京都外国語大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-496-1 ¥5000

ニューズランド百科事典

ニューズランド学会 編  
ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333



バウハラ・トラウマに対する短期心理療法—プ

リーフェラビー・臨床動作法・NLPの理論

と実務 岡本浩一・長谷川明弘 編  
心理的被害軽減のための救急的な措置を、臨

床心理学の知見に基づき模倣可能な形で提示。  
職場での支援活動に短期間で効力を発揮する。  
ISBN 978-4-86110-639-2 ¥2500

世界のメディア—グローバル時代における多様

性 小寺敦之 (東洋英和女学院大学准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500

アジアの国際関係—移行期の地域秩序

福田保 (東洋英和女学院大学准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500

新時代のやさしいトラウマ治療

岡本浩一・角藤比呂志 編  
ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500

EU統合を読む—現代ヨーロッパを理解する

ための基礎 小久保康之 編  
ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500

ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和

女学院大学メディア・コミュニケーション研  
究所 編  
ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500

グローバル化—パトリシア・スイツベル 編

岡本浩一 (横浜市立大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

ダニテ神曲原典読解語源辞典《地獄》《煉獄》

《天国》 福島治 ISBN 4-921146-77-2 /  
4-921146-78-0 / 4-921146-79-9 各巻 ¥46000

現代日本語モロコシ語辞典

橋本勝 (大阪大学名誉教授) / E・プレジヤン  
ISBN 4-921146-33-0 ¥15000

日本の英語辞書と編纂者 愛知大学文学會最

書 XI 早川勇 (愛知大学名誉教授)  
ISBN 4-86110-064-X ¥6600

阿部公彦

英文学に  
デコピン



10 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』の粘着性

英文学賛否両論シリーズ第一弾。今回はエミリー・ブロンテの『嵐が丘』をとりあげる。

熱狂的なファンの多いこの作品、私の周囲からも「もう何十回読み返したかわからない!」「これこそ、ザ・英文学。これで私は開眼した」との熱い思いが聞かれる。

しかし、そんな「熱狂派」のわきに「懐疑派」もいる。英国ヴィクトリア朝小説を専門にする人でも『嵐が丘』は苦手とか「まだ『フランケンシュタイン』の方がまし」と言う人がいる。どうしてだろう。この温度差は何なのか。『嵐が丘』読者における温度差の研究」といった論文があってもいいかもしれない(まるで物理の論文のようだが)。

たしかに『嵐が丘』は奇妙な小説だ。とにかく悪意と情念と暴力がたつぷりで、それだけで読んでいてへこたれそうになる。加えて、プロットというにはあまりにひねりのない直線的な物語進行。登場人物の名前には使い回しが多く、キャサリンやリントンが何人もいて誰のことかわからなくなる。主役ヒースクリフの超人的な悪役ぶりもご都合主義的だ。

とにかく「あ〜、すっきりした!」とさわやかに感動できる小説ではないのだ。しかし、逆に言うと、小説の持つ「さわ

やかでない部分」をこれほど溜めこんだ作品も珍しい。

何と言ってもヒースクリフの粘着的な怨念。その復讐劇は親子二世代にわたる(何を恨んでいるのか忘れそう)。驚嘆すべき「しつこさ」だろう。ヨークシャームアなどという、たまに訪れる観光地としてはよくても、住むにはあまりに荒涼とした土地の屋敷に幽閉される人々の、息のつまらぬような生活も、部屋に鍵をかけたのかけないのといったちまちました細部も、慢性病のように重苦しい。

しかし、粘着性や閉塞感、小説の強度を高めるには最大の武器となる。私たちの作品体験を真の意味で充実させるのは、さわやかな忘却を許すようなスカッとしたプロットではなく、読んでも読んでも終わらないような、いやらしくねちっこくこちらの心に引っかかる澁みのようなものではないか。

『嵐が丘』は、好きだから読み返すという作品ではないのだ。読み返してもいらないのに読み返したような気になる、そんなしつこい読後感をこの小説は生み出すのである。小説を好きになるための重要な方法がここにはある。忘れないこと。しつこく思い出すこと。一度読んだだけで、そんな感覚の入り口に立たせる力が『嵐が丘』にはある。(英文学者)

立教大学人文叢書

詩歌・俳句

観光・環境・自然

1 人文資料学の現在—

浦野聡他 編著  
ISBN 4-86110-063-1 ¥2200

2 文学の基礎レッスン

後藤和彦 編著  
ISBN 4-86110-087-9 ¥2200

3 肖像と個性

藤巻明他 編著  
ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200

4 人文資料学の現在II

菅谷憲典 編  
ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200

5 書簡を読む

桑瀬章一郎 編  
ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200

詩集 時のなかに

北岡武司 (岡山大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-616-3 ¥1800

太陽と黄昏と夜 詩的风景

高野正夫 (駒澤大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-589-0 ¥1800

二つの季節

松永澄夫 (東京大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-601-9 ¥1000

カメレオン

三浦衛 (春風社代表)  
ISBN 978-4-86110-473-2 ¥2200

テテムシ 新美南吉詩歌集

石川勝治 (長崎県立大学名誉教授・斎藤卓志(民俗学) 編  
ISBN 978-4-86110-406-0 ¥1800

谷川健一全歌集

谷川健一 (民俗学者・歌人)  
ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800

邂逅

岩田澄江  
ISBN 978-4-86110-324-7 ¥952

突撃!よこはま村の100人—自転車記者

が行く 佐藤将人 (神奈川新聞記者)  
ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500

瀬戸内、鳥瞰の旅—風景の奥を読む

伊藤松雄 (四国学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800

おはあちゃん!豚となつて木に登る

外川洋子  
ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500

富士山学への招待—NPOが富士山と地域を

救う 渡辺豊博 (元都留文科大学教授)  
ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

失敗しないNPO—クラウドワーク三島の

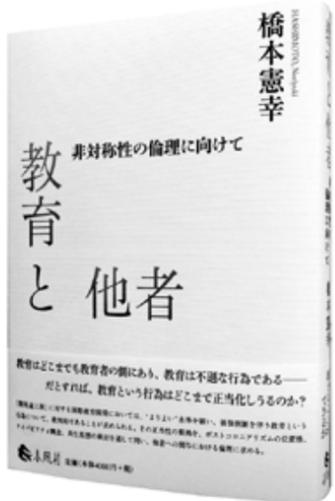
20年とイギリスに学ぶ 渡辺豊博 (元都留文科大学教授) 編著  
ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500

英和の森の植物たち—感じる、遊ぶ、食べる

中池敏之・川崎末美 (東洋英和女学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600

コバタンの繁殖—絶滅危惧種保存への挑戦

石川文也 (日本鳥学会会員)  
ISBN 978-4-86110-195-3 ¥2800



### 教育と他者

非対称性の倫理に向けて

橋本憲幸 (山梨県立大学准教授)

教育はどこまでも教育者の側にあり、教育は不遜な行為である。だとすれば、教育という行為はどこまで正当化しうるのか。「開発途上国」に対する国際教育開発の正当性の根拠を問う、他者への関与における倫理に求める。

A5判上製・三六六頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-614-9



### 移動する女性たち

海外の日本語教育と

国際ボランティアの周辺

平畑奈美 (東洋大学准教授)

海を渡る「日本語教師」をめぐる幻想と実像——八割が女性という日本語教師を取り巻く環境と課題を、青年海外協力隊・日本語教育隊員経験者へのアンケート調査、および四人の女性のライフストーリーをもとに明らかにする。

A5判並製・二八〇頁 定価(3241円+税)  
ISBN 978-4-86110-638-5

### 共同体による自己形成

教育と政治のプラグマティズムへ

生澤繁樹 (名古屋大学准教授)

「自己」と「共同体」との和解や調停をめざす共同体論的転回、どうしてデューイに回帰することになるのだろうか。「共同体」に定位した社会・政治哲学の語り口が教育の領域においてどのように論じられてきたかを論究する。

A5判上製・五二八頁 定価(5500円+税)  
ISBN 978-4-86110-641-5



### 大学英語教育の質的転換

「学ぶ」場から「使う」場へ

佐藤響子 (横浜市立大学教授)

Carl McGary (横浜市立大学教授)

グローバル化時代に求められる語学力とは？アクティブで双方向的な英語力育成のための理念と教授・学習方法を、オンライングリッシュやCLIL、TOEFLといった多彩な英語教育の取り組みを通して提言する。

A5判並製・二二八頁 定価(2300円+税)  
ISBN 978-4-86110-618-7

The Developmental Process of Japanese Elementary School Teachers Associated with Teaching English while Engaged in Lesson Study 上原明子 (都留文科大学准教授) 小学校英語教育での教師と教職課程学生の指導の現状を分析・考察し、各々の経験を活かす取組方法を提案。本文英語。 ISBN 978-4-86110-634-7 ¥5900

教師のゲートキーピング スティーブン・J・ソーントン 著/渡部竜也 他訳 ISBN 978-4-86110-328-5 二刷 ¥2857

人生の調律師たち—動的ドラマトゥルギーの展開 藤川信夫 (大阪大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-540-1 ¥4500

アメリカ人の生活と学校カリキュラム—生活に根差した学校に向けての次のステップ ハロルド・O・ラング 著/渡部竜也・斉藤仁一朗・堀田論・桑原敏典訳 学び手の創造性が活きる相互的な学び方とは？ デューイと同時期の社会科教育の先駆者の代表作。初訳。 ISBN 978-4-86110-602-6 ¥6000

居場所—生の回復と充溢のトボス 萩原建次郎 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-566-1 ¥2315

教育実践の昭和 横須賀薫 (元十文字学園女子大学学長) ISBN 978-4-86110-512-8 ¥2000

歴史的思考—その不自然な行為 サム・ワインバーグ 著/渡部竜也 (東京学芸大学准教授) 監訳 ISBN 978-4-86110-555-5 二刷 ¥5100

子ども(の内面)とは何か—言語ゲームから見た他者理解とコミュニケーション 杉田浩崇 (愛媛大学准教授) ISBN 978-4-86110-556-2 ¥3700

いのちを育む教育学 吉岡良昌 (元東洋英和女学院大学教授)・大川洋 (国際基督教大学上級准教授) ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

正しい学び/学力—質の高い知をめぐめる学校 再建 フレッド・M・ニューマン 著/渡部竜也・堀田論訳 ISBN 978-4-86110-525-8 ¥6200

絵本から「子ども福祉」を考える 青木文美 (愛知淑徳大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

アメリカ教育福祉社会史序説—ビジネスマン・ティーチャーとその時代 倉石一郎 (京都大学教授) ISBN 978-4-86110-416-9 二刷 ¥2000

世界初市民性教育の国家規模カリキュラム 渡部竜也 編訳 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

現代の学校を読み解く—学校の現在地と教育の未来 末松裕基 (東京学芸大学准教授) 編著 ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300

物語が始まるとき—共創教育の現場から 青木幸子 (昭和女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

モン・クッドのための歴史教育—社会文化的アプローチ レヴステイク、バートン 著/渡部他訳 ISBN 978-4-86110-445-9 二刷 ¥6000

留学生の見た漢字の世界—漢字学習への創造的アプローチ 林さと子・関麻由美・齋藤伸子 編著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

ワークシートで学ぶ—生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・服部伴文・村木見 ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

よぶであろうとみている。つまり、そうしたデジタルコミュニケーションにもとづく、ヒトとヒト、ヒトとモノの「出会い」が、未来にとってきわめて重要な意味をもつと考えているのだ。それじたい、'face-to-face communication'を絶対視する立場からすると虚構であるが、アーリはそこにいまの世界が果たせないある種の親密圏形成の可能性をみようとしようとしている。

ちなみに、アーリが未来において想到する「出会い」は、「共にあること」、つまりここでいうコ・プレゼンスを前提としている。しかしこのコ・プレゼンスはいまの世界ではまったく手垢にまみれている。世界のあちこちで吹き荒れている排外主義はコ・プレゼンスを絵空事にしている。この現実を目をどぎして、コ・プレゼンスをあるかのように語ると、かえって世界のすみずみに浸透しているグローバル権力の暴力性をみのがしてしまうおそれがある。

とはいえ、ある種理念倒れとしてあるコ・プレゼンスがまったく空しいというのではない。それが将来社会への一つの道標として未来に引き継がれていくなれば、虚構を越えてリアリティをもつことになるだろう。だから、そうした可能性を秘めた、デジタルな情報環境に合致したコミュニケーションにもとづく「出会い」は、それじたい虚構でありながら、リアルでトランスパフォーマティブな力をもつことになる。あらためてアーリの奥の深さに驚いている。(社会学者)



### 1 / 空虚な未来はない……?

モビリティーズ・スタディーズを掲げて世紀転換期を駆け抜けた社会学者ジョン・アーリ (John Urry) が亡くなってから、やがて3年になる。私はいま、そのアーリの遺作である *What is the Future?* の訳業に従事しているが、晩年のアーリが未来についてあれこれと思い悩んでいたことが、いま私の心を深くとらえて離さない。

アーリは未来をディストピアとして描いているが、それは空虚な未来ではない、といっている。アーリが想到する未来はいくつかあるが、いずれの場合も、いま社会を大きくゆるがしているAI化とデジタルコミュニケーションの影響が深くお

日中教育対話―川山 凱声／山崎高哉 共編
ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200 / ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 / ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

私ほどのような教育実践をめざすのか―言語教育とアイデンティティ 細川英雄・鄭京姫 編
ISBN 978-4-86110-379-7 ¥2800

子どもの心にどう授業―三重県桑名市立藤が丘小学校における六年 伊藤新司 編著
ISBN 978-4-86110-326-1 ¥2381

海峽を越えて―京畿高等女学校の思い出 太田孝子 (岐阜大学教授)
ISBN 978-4-86110-157-1 ¥2200

戦前感化・教護実践史 佐々木光郎・藤原正範
ISBN 4-921146-18-7 ¥4800

昭和戦前期の少年教護実践史(上・下) 佐々木光郎 上 ISBN 978-4-86110-330-8 下 ISBN 978-4-86110-331-5 各巻 ¥3500

新版 生涯学習と地域社会教育 末本誠 (湊川短期大学学長)・松田武雄 (中村学園大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-234-9 ¥2476

学びを開くNIE―新聞を使ってどう教えるか 影山清四郎 (横浜国立大学名誉教授) 編著
ISBN 4-86110-080-1 ¥2381

幼児キャンプ―雪の体験 山梨幼児野外教育研究会 監修
ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

ウエールズ語の歴史 ジャネット・デイヴィス 著、小池剛史 (大東文化大学准教授) 訳
英語の圧倒的な影響のもとで力強くしなやかに生き抜いてきたウエールズ語の歴史。現代の使用状況や発音・文法の簡単な紹介も。
ISBN 978-4-86110-608-8 ¥2700

視覚スキーマを用いた意味拡張機構づけの分析 栗田奈美 (拓殖大学特任講師)
ISBN 978-4-86110-564-7 ¥5500

日本語のポライトネス再考―発話行為・発話媒介行為・相互行為 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-502-9 ¥3500

ペトナム語母語話者のための日本語教育 松田真希子 (金沢大学准教授)
ISBN 978-4-86110-491-6 ¥3600

英語と開発―グローバル化時代の言語政策と教育 F・サージント、E・J・アールینگ 編
松原好次 監訳
ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語の名詞をきわめる―可算名詞と不可算名詞の使い分け 小林悦雄 (立教大学教授)
ISBN 978-4-86110-470-1 ¥1800

英語学―現代英語をより深く知るために 菊池清明 (元立教大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

英文法は役に立つ!―英語をもっと深く知りたい人のために 古田直肇 (東洋大学准教授)
ISBN 978-4-86110-434-3 ¥2000

第二言語学習と個別性 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ 編
ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis 鈴木憲夫 (元神戸親和女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-114-4 ¥7619

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II 鈴木憲夫 (元神戸親和女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-300-1 ¥6667

シモンと「国語」辞典の誕生―十八世紀巨人の名言・金言 早川勇 (愛知大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-399-5 ¥2500

啓蒙思想下のシモン辞書―知の集成を目指して 早川勇 (愛知大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

英単語のいさ 早川勇 (愛知大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-217-2 ¥1800

英語教育の精神と実践―コミュニケーションから英米文学まで 岡田善明 (日本大学講師)
ISBN 978-4-86110-361-2 ¥1800

フェイリス相互作用理論―日本語学習クラスにおける相互作用からフェイリスワークをとらえる 横溝環
ISBN 978-4-86110-286-8 ¥4667

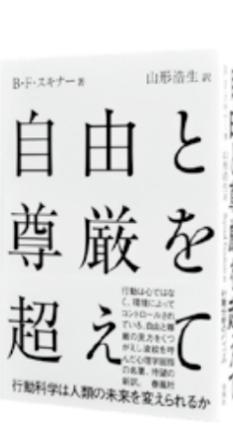
Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition 伊庭緑 (甲南大学教授)
ISBN 978-4-86110-235-6 ¥4600

はじめての論文―語用論的な視点で調査・研究する 田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 4-86110-349-0 二刷 ¥1800

プラグマティクス・ワークショップ―身のまわりの言葉を語用論的に見る 田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 4-86110-073-9 四刷 ¥1800

「俗語」から「国家語」へ―スウェーデン黄金世紀の言語思想史 岡本信照 (京都外国語大学教授)
ISBN 978-4-86110-291-2 ¥3333

心理



自由と尊厳を超えて B・F・スキナー 著／山形浩生 訳
行動の原因を心ではなく環境に求め、よりよい世界を科学的に作りだすことを説く。心理学界に絶大な影響を与え、自由と尊厳の見方をくつがえした名著、待望の新訳!

SBN 978-4-86110-341-4 二刷 ¥2381

デイケアの心理学 浮田徹嗣 (横浜市立大学准教授)
ISBN 978-4-86110-306-3 ¥3000

環境心理学―環境デザインへのパースペクティブ 槇 慎究 (実践女子大学教授)
ISBN 4-86110-010-0 二版 二刷 ¥2286

社会・歴史



寛容な社会 池端忠司 (神奈川大学教授) 訳
言論の自由はどこまで保障され、どこで制限されるのか。私たちの目指す寛容とは何か。アメリカ合衆国憲法修正第一一条が保障する言論の自由の価値や目的を考察する。
A5判並製・三九〇頁 定価(3900円+税)
ISBN 978-4-86110-593-7

アメリカ合衆国におけるリー・C・ボリンジャー 著
池端忠司 (神奈川大学教授) 訳

「俗語」から「国家語」へ―スウェーデン黄金世紀の言語思想史 岡本信照 (京都外国語大学教授)
ISBN 978-4-86110-291-2 ¥3333

ポストモダンの処方箋

23 感性の新自由主義化 白井聡

「平成はどのような時代だったか」を語ることが大流行している。1990年前後～現在という時代区分は、ひとことで言えば、グローバル化を旗印とした新自由主義化の時代であった。新自由主義化とは何であるのか。例えば、デヴィッド・ハーヴェイは、「資本家階級による労働者階級に対する階級闘争」であると見なす。この見方は本質を衝いているだろう。だが、加えて考えなければならないのは、相手方が断固たる攻撃を仕掛けてきており、居宅に火が放たれ燃え上がっているというのに、その住人(労働者階級)がグググと鼻をかいて寝続けているのはなぜなのか、という謎なのだ。

てきたのは、公式のタクシーがない代わりに、走っているすべての車が実は潜在的にタクシーである、ということだった。すなわち、白タクである。こうした状況は、ソ連崩壊による混乱から生まれたものだった。失職やハイパーインフレによる困窮に直面したため、自家用車を走らせて白タク行為をすることで生活費の足しにすることが、多くの人々の慣習となったのである。

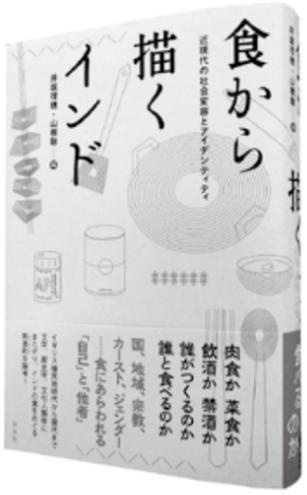
新自由主義化がこの国で約30年間(平成時代とほぼ重なる)進行したいま、つくづく思うのは、新自由主義が変えたものの核心は、人々の感性ではないのか、ということだ。例えば、タクシー配車サービスのUberは、画期的で便利だと世界中で称賛を受けている。しかし、1999～2000年にかけてロシア・モスクワに長期滞在した経験を持つ私から見ると、Uberのどこが画期的なのか、全く理解に苦しむ。当時、モスクワ到着後困惑したのは、「タクシーが走っていない」ということだった。モスクワのごとき大都市にタクシーがないとはいかなることなのか。だんだんわかっ

だから、Uberの隆盛において驚くべきことがあるとすれば、IT技術を駆使した配車システムではなく、白タクを転がして稼ぎの足しにしたいと考える人々、体制崩壊によって生活基盤が壊され困窮したロシア人のような人々がいま世界中に溢れていることだ。

だが、Uberの創始者はイノベーターとして持て囃され、霞ヶ関でも早くこのサービスを解禁すべきという声があると聞く。端的に言えば、「新しい、画期的!」と現在称賛されているものの8割方は、新手の搾取のためのデバイスにすぎない。しかし、被搾取者がこのことをわからなくなるのが、新自由主義の世界だ。再分配政策を提言することも大事かもしれないが、その前提は反撃としての階級闘争が始まることであり、そのためには破壊された感性を再建するところから始めなければならない。(政治学者)

食から描くインド

近現代の社会変容とアイデンティティ 井坂理穂 (東京大学准教授)
山根聡 (大阪大学教授) 編
肉食か菜食か、飲酒か禁酒か。誰がつくるのか、誰と食べるのか? 国、地域、宗教、カースト、ジェンダー……イギリス植民地時代から現代まで、インドの食をめぐる刺激的論集!
四六判上製・四〇〇頁 定価(3700円+税)
ISBN 978-4-86110-633-0



ニュージールランド TODAY ニュージールランド学会 編
98ページビジュアル+2コラムを各見開き2頁でわかりやすく解説。駐日ニュージールランド大使が推薦する、現代NZ情報の決定版!
四六判並製・三五三頁 定価(2000円+税)
ISBN 978-4-86110-644-6

**社会学批判と現代—早瀬利雄の人と学問**  
内藤辰美 (山形大学名誉教授)  
社会学者・早瀬利雄の先駆的業績を紹介・解説。治安維持法下における検挙、清水幾太郎との比較、横浜市政との関わりなどにも触れ、その人物と時代を描く。  
ISBN 978-4-86110-561-6 ¥2900

**基礎的自治体と町内会自治会—「行政協力制度」の歴史・現状・行方**  
日高昭夫 (山梨学院大学特任教授)  
町内会自治会は、任意の住民自治組織なのか、地方自治システムなのか。行政協力制度の現状と課題を明らかにする。  
ISBN 978-4-86110-611-8 ¥2200

**難民支援—ドイツメディアが伝えたこと** 松原好次 (元電気通信大学教授、内藤裕子(翻訳者) 二〇一五年以降のドイツにおける難民支援の実情と変遷を、新聞・ブログなど現地のメディアをもとに紹介・解説。一市民に何ができるのかを問う。  
ISBN 978-4-86110-607-1 ¥2700

**海と陸の織りなす世界史—港市と内陸社会** 弘末雅士 (元立教大学教授、東洋文庫研究員) 編  
古代エジプトから現代のシアトル、バンクーバーに至るまで、海と陸の多様な関係と人びとの交流の諸相をたどり、広域ネットワークと地域社会の成立過程を明らかにする。  
ISBN 978-4-86110-592-0 ¥3000

**エネルギーと地方財政の社会学—旧産炭地と原子力関連自治体の分析** 湯浅陽一 (関東学院大学教授)  
石炭から石油、原子力、再生可能エネルギーへの移り変わりの中で、地方財政はいかなる問題を抱えてきたのか。  
ISBN 978-4-86110-586-9 ¥3700

**スイスの謎—経済的空間的秩序** 加藤幸治 (国土館大学教授)  
言語・宗教・文化・制度面での「多様性」が拡がりつつあるにもかかわらず、スイスが国民国家として一体化しているのはなぜか？その謎を経済地理学的観点から解明する。  
ISBN 978-4-86110-585-2 ¥2700

**カヌードスの乱—19世紀ブラジルにおける宗教共同体** 住江淳司 (名城大学教授)  
共和制移行直後のブラジル。「救世主」に率いられた千年王国的共同体を設立した農民たちは、政府軍に対して最後まで戦い全滅した。ブラジル史上最悪の内戦の全貌を描く。  
ISBN 978-4-86110-571-5 ¥2200

**東アジアの秩序を考える—歴史・経済・言語** 岩下哲典・安田震一・橋本真吾・塚越俊志・小川唯・高田誠・中川仁・濱口裕介・吉田雅子  
18世紀以降、西洋の外圧を受けながら、東アジアはどのような秩序を構築していったのか？中国、台湾、日本における諸相を探る。  
ISBN 978-4-86110-574-6 ¥3700

**英国聖公会宣教師の日本伝道と函館アイヌ学校** 田辺陽子 編著 / 西口忠 著 / F・ピリングスリー 監修 ISBN 978-4-86110-580-7 ¥2600  
**当事者が支援する—薬物依存からの回復** ダルクの日記パート2 南保輔・中村英代・相良翔編 ISBN 978-4-86110-584-5 ¥2000

**戦後小樽の軌跡—地方都市の衰退と再生** 内藤辰美・佐久間美穂 (川村学園女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-526-5 ¥3800  
**北の商都「小樽」の近代—ある都市の伝記** 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900

**都市の遺産とまちづくり—アジア大都市の歴史保全** 鈴木伸治 (横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-560-9 ¥3200  
**新版 学問の暴力—アイヌ墓地はなぜあはかれ** たか 植木哲也 (吉小牧駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-531-9 ¥2400

**〈フォーク〉からの転回—文化批判と領域史** 小長谷英代 (早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-535-7 ¥4300  
**ミットフォードと釈尊—イギリス人外交官の見た理想郷日本** A・B・ミットフォード 著 / 大西俊男 訳 ISBN 978-4-86110-524-1 ¥3200

**都市近隣組織の発展過程—コミュニティガバナンスの日本比較論** 大内田鶴子 (江戸川大学教授) ISBN 978-4-86110-527-2 ¥5000  
**東亜連盟運動と石原莞爾** 内村琢也 (研究者) ISBN 978-4-86110-522-7 ¥5000

**素描・杉原千畝** 小谷野裕子 (エッセイスト) ISBN 978-4-86110-528-9 一刷 ¥1800  
**天馬山—北朝鮮からの引揚げ者の語り** 浅井重紀子 (桜美林大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-519-7 ¥2200

**「幻の東京オリンピック」の夢にかけた男—日本近代スポーツの父岸清一郎語** 古城庸夫 (江戸川大学准教授) ISBN 978-4-86110-484-8 ¥2000  
**歴史教科書とナショナリズム—日本とドイツ** 原口健治 (青山学院大学教授) ISBN 978-4-86110-506-7 ¥2700

**宝は田から—しあわせの農村民俗誌** 山形県米沢 佐野賢治 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-507-4 ¥3500  
**先生、NPOって儲かりますか？—若者たちが地元で賢く生きる方法** 渡辺豊博 (元都留文科大学教授) ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389

**今、田村明を読む—田村明著作選集** 鈴木伸治 (横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-508-1 一刷 ¥2000  
**ケニアへかけた虹の橋—30年の国際ボランティア活動** NPO法人「少年ケニアの友」編 ISBN 978-4-86110-485-5 ¥1833

**米国の沖縄占領と情報政策—軍事主義の矛盾とカモフラージュ** 吉本秀子 (山口県立大学准教授) ISBN 978-4-86110-451-0 ¥6500  
**ホストセリングを知っていますか？—日本の子ども向けテレビCMの実態** 山下玲子、藤井達也 ISBN 978-4-86110-435-0 ¥3000

**変容するテレビニュースとキャスターの役割** 深澤弘樹 (駒澤大学准教授) ISBN 978-4-86110-432-9 ¥3400  
**婚姻連帯論と社会学—レウィニストロース** テュルクをめぐって 門口充徳 (成蹊大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900

**ペリーと黒船祭—日米文化外交史** 佐伯千鶴 (北アヤママ大学准教授) ISBN 978-4-86110-425-1 ¥2200  
**難の誕生—難節供に込められた対の豊穡** 皆川美恵子 (十文字学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3800

**スイスの歴史ガイド** グレコワール・ナッハイ 著 / 藤野成爾 訳 ISBN 978-4-86110-413-8 ¥1800  
**地域と越境—「共生」の社会経済史** 内田日出海・谷澤毅・松村岳志 編 ISBN 978-4-86110-407-7 ¥3500

**不思議フランス 魅惑の謎** 藤野敦子 (京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-401-5 二刷 ¥1800  
**保守のピント** 中島岳志 (東京工業大学教授) ISBN 978-4-86110-227-1 ¥1800

**変容する冷戦後の世界—ヨーロッパのリベラル・テモクラシー** 永松雄彦・萬田悦生 編 ISBN 978-4-86110-224-0 ¥2381  
**空間のエスノグラフィ—文化を横断する** 川床靖子 (大東文化大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-367-4 ¥2700

**日系アメリカ人強制収容とジャーナリズム—リベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦** 水野剛也 ISBN 4-86110-038-0 ¥4600  
**1920年代の日本と国際関係—混沌を越えて「新しい秩序」へ** 杉田米行 (大阪大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-262-2 ¥2500

**ネットワーク社会と空間のポリティクス—都市・モダン・グローバリゼーション** 大澤善信 ISBN 978-4-86110-202-8 ¥2800  
**ブラジルの都市問題—貧困と格差を越えて** 住田育法 (京都外国語大学教授) 監修 ISBN 978-4-86110-173-1 ¥3619

**フランス革命を旅したイギリス人—リグビー博士の書簡より** E・リグビー 著 / 川分圭子 訳 ISBN 978-4-86110-171-7 ¥2381  
**貧困をどのように捉えるか—H・ガンスの貧困論** 西村貴直 (関東学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-343-8 ¥3333

**イングランドの地名—起源と歴史を訪ねて** K・キヤメロン 著 / 古見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-290-5 ¥4286  
**表象のヴェネツィア—詩と美と悪魔** 鳥越輝昭 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-329-2 ¥2800

**旅する対話—ティアスホラ・戦争・再生** 姜信子 (作家)、ザラ・イマーエワ (映像作家) ISBN 978-4-86110-350-6 ¥1800  
**グローバリゼーション、市民権、都市—ヘクソスの社会学** 岩永真治 (明治学院大学教授) ISBN 978-4-86110-140-3 一刷 ¥3333

**ヒトから人へ—一人前への民俗学** 佐野賢治 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-281-3 ¥2381  
**物権法概説** 小泉健 (一橋大学学長) ISBN 978-4-86110-221-9 ¥2800

**僕の解放前後—一九四〇—一九四九** 柳宗鎬 著 / 白燦 訳 / 太田孝子 日本語校閲 ISBN 978-4-86110-164-9 ¥2800  
**かの冬、そして秋—僕の朝鮮戦争** 柳宗鎬 著 / 白燦 訳 / 太田孝子 日本語校閲 ISBN 978-4-86110-256-1 ¥2800

**保生大帝—台北大龍峒保安宮の世界** 尾崎保子 (元昭和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-105-2 ¥2800  
**牡牛と信号—〈物語〉としてのネハール** 山本真弓 / 序・佐々木幹郎 (詩人) ISBN 4-921146-60-8 ¥2200

**異色の経済学者** フリードリッヒ・リスト  
フリードリッヒ・リスト  
Friedrich List  
「異色の経済学者」の実像を描き、晩年の謎に迫る。  
ISBN 978-4-86110-576-0 ¥2700

**異色の経済学者** フリードリッヒ・リスト  
諸田實 (神奈川大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-576-0 ¥2700  
**国際コミュニケーションの政治学** 本多周爾 (武蔵野学院大学教授) ISBN 978-4-86110-524-4 ¥3000

**医療制度改革の比較政治** 石垣千秋 (山梨県立大学准教授) ISBN 978-4-86110-534-0 ¥5400  
**日中比較産業史—取引慣行と制度に見る戦前期中日経済の特質** 四方田雅史 (静岡文化芸術大学准教授) ISBN 978-4-86110-486-2 ¥3700

**アメリカの対日通貨政策の形成—1971—2003年の日米通貨交渉を事例として** 増水真 ISBN 978-4-86110-359-9 ¥2700  
**中国興業銀行の崩壊と再建—第二次大戦後フランスの政治・経済・金融的対抗** 篠水宣孝 (天東文化大学教授) ISBN 978-4-86110-565-4 ¥8640

**BOOK REVIEW**  
「ファンタジー」にこそ「リアル」は宿る  
『幻想と怪奇の英文学III—転覆の文学編』  
東雅夫・下楠昌哉(編)、ローズマリー・ジャクソン(著)、下楠昌哉(訳)



幻想文学を「ジャンル」ではなく「モード」として捉え直し、トドロフの「詩学」に限定された先行研究を社会反映論的な「政治学」にまで拡張した名著の翻訳、とひとまず整理できようが、そうした折り返し正しい「まとめ」など木端微塵にする「カウンター・カルチャーの聖典」としての圧倒的熱量にまず打ちのめされる。副題の「転覆の文学」は伊達ではない。

冒頭の謝辞に『境界侵犯』の著者アロン・ホワイトの名があることから窺い知れるように、一声主義的な「現実」が幅を利かせる硬直した社会に多声を侵犯させ複数化するのが幻想文学の機能、というバフチンの理論に徹底してコミットした論展開がなされる。「リアル」な社会の抑圧が最も刻印された形式こそが「ファンタジー」であるというパラドクスが痛快無比で、当節流行のヒップホップが強調する「リアル」や『ラ・ラ・ランド』ラストの「ファンタジー」シーンを再考するオルタナティブな視点にさえなりうる。またミソジニーで悪名高いヴィクトリア朝にブロンテ姉妹といった「女性ゴシック」が大量発生したことは実は無関係でなく、この時代現象から父権社会を転覆する「ラディカルな意志」が読み込める等々、ディテール面でも膝を打つ分析の百花繚乱である。

洋の東西を超えて、本書が高山宏『アリス狩り』と同じ1981年に上梓された点も見落とせない。『白鯨』を情報爆発型のエントロピーの文学であるとした學魔と同様、第7章ではピンチョンの短編「エントロピー」が幻想文学の括りて取り上げられ、カオスへの同時代的な渴仰が感じられる。最後に後続について一言触れると、日本アニメ研究で名高いスーザン・ネイピアが本書に多大な影響を受けていて、バフチンを援用する彼女の方法論がジャクソン譲りだったと分かる(ネイピアは学問上「ローズマリーの赤ちゃん」だった!)。原著刊行から40年近く過ぎての翻訳だが、その有効性は未だ失われていない。



# グローバル都市を 生きたる人々

イラン人ディアスポラの民族誌  
椿原敦子 (龍谷大学講師)  
イラン革命を機にアメリカ・ロサンゼルスへ亡命・移住してきたイラン人たち。日々移動しながら分散して暮らす、イラン出身者の民族誌。  
A5判上製・三三三頁 定価(3700円+税)  
ISBN 978-4-86110-599-9



流れをよそおうーレバノンにおける相互行為  
の人類学  
池田昭光 (東京外国語大学研究員)  
様々な宗教・宗派集団が共存し、内戦の記憶の残るレバノン。日常の微細な場面に光を当て、人びとの様態を記述する。  
ISBN 978-4-86110-587-6 ¥3500

都市の寺廟ーシンガポールにおける神聖空間  
の人類学  
福浦厚子 (滋賀大学教授)  
厳しい宗教政策の中で生き残りをはかる寺廟。盛大な年中行事、霊媒による交霊会……都市社会における神聖空間の役割を探る。  
ISBN 978-4-86110-599-9 ¥4000

文化遺産はだれのものかートルコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護  
田中英資 (福岡女学院大学准教授)  
様々な時代の遺跡が重層的に残るトルコ。過去の痕跡をめぐる国内外の主張から、「文化遺産」という概念を問い直す。  
ISBN 978-4-86110-3548-7 ¥3700

建築人類学ー読む・描く・造る  
牧野冬生 (駒沢女子大学特任准教授)  
居住空間を、住民によって読まれるべき(テキスト)と捉え、建築行為を民族誌として読み解く。フィリピンの不法占拠地域の調査で試みる、建築学と人類学の融合！  
ISBN 978-4-86110-539-5 ¥4000



# まちづくりの エスノグラフィ

《つくば》を織り合わせる人類学的実践  
早川公 (大阪国際大学准教授)  
まちづくりは何をつくるのか？人びとの実践を支える論理と、そこに共有される新たなリアリティ。筑波山麓地域でのフィールドワークから、人類学的まちづくり実践を提示する。  
四六判上製・一六四頁 定価(3700円+税)  
ISBN 978-4-86110-626-2 一刷

世界遺産の自然と暮らし  
今井一郎 (関西学院大学教授)  
ISBN 4-921746-98-5 ¥1905

貧困と連帯の人類学ーブラジルの路上市場における二方的贈与 奥田若菜 神田外語大学准教授  
ISBN 978-4-86110-532-6 ¥3700

The Agricultural Mongols  
ホルジギン・レンサイン (滋賀県立大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-543-2 ¥6000

「共感」へのアプローチー文化人類学の第歩  
渥美一弥 (自治医科大学教授)  
ISBN 978-4-86110-497-8 ¥2000

霊媒のいる街ー北タイ、チェンマイの宗教復興  
興 福浦一男 (桐蔭横浜大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-489-3 ¥4000

《紛争》の比較民族誌ーグローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混乱  
丹羽典生編著 ISBN 978-4-86110-482-4 ¥3700

つながりの民族誌ー中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索 金繩初美 (西南学院大学教授) ISBN 978-4-86110-487-9 ¥5000  
実践と感情ー開発人類学の新展開 関根久雄 (筑波大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-469-5 ¥3500

# アフリカ漁民文化論 水域環境保全の視座

今井一郎 (関西学院大学教授) 編  
経済活動が活発化するなかで、いかに持続可能な漁業を行うことができるか？漁民の多様な実態を、知恵や技術、経済活動、資源管理の側面から明らかにする。  
A5判上製・三〇四頁 定価(3700円+税)  
ISBN 978-4-86110-643-9



現代アジアの宗教ー社会主義を経た地域を讀む 藤本透子 (国立民族学博物館准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-453-4 ¥4200

途上と目的地ースペイン・サントアゴロ徒歩巡礼路 旅の民族誌 土井清美  
ISBN 978-4-86110-466-4 ¥4000

聖なる鉄琴スロテンの民族誌ーバリ島トウガナン・ブクリンガン村の生活 信仰 音楽 野澤暁子 ISBN 978-4-86110-440-4 ¥4700

シヨ・パフォーマンスが立ち上がるー現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係 大門碧  
ISBN 978-4-86110-449-7 ¥4500

誰が差別をつくるのかーエチオピアに生きるカファ・ウランジヨの関係誌 吉田早悠里 (南山大学准教授) ISBN 978-4-86110-402-2 ¥4900

ハワイ人とキリスト教ー文化の混濁とアイデンティティの再創造 井上昭洋 (天理大学教授) ISBN 978-4-86110-426-8 ¥2700

ヘリジカの贈り物ー北方狩猟民カスカと動物の自然誌 山口未花子 (北海道大学准教授) ISBN 978-4-86110-383-4 ¥3200  
Social Development, Culture, and Participation 阪本公美子 (宇都宮大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-174-8 ¥6476

# シリーズ 来たるべき人類学 (全五巻)

- 1/セックスの人類学 奥野克己・椎野若菜・竹ノ下祐二編 ISBN 978-4-86110-180-9 一刷 ¥1905
- 2/経済からの脱出 織田竜也・深田淳太郎編 ISBN 978-4-86110-200-4 ¥2381
- 3/宗教の人類学 吉田匡興・石井美保・花淵馨也編 ISBN 978-4-86110-247-9 ¥1905
- 4/アジアの人類学 片岡樹・シンジルト・山田仁史編 ISBN 978-4-86110-357-5 一刷 ¥2381
- 5/人と動物の人類学 奥野克己・山口未花子・近藤社秋編 ISBN 978-4-86110-325-4 ¥2381

- Dominio provincial en el Imperio Inca 渡部森哉 (南山大学教授) ISBN 978-4-86110-431-2 ¥4630
- Estructura en los Andes Antiguos 渡部森哉 (南山大学教授) ISBN 978-4-86110-371-1 ¥5714
- インカ帝国の成立ー先スペイン期アンデスの社会動態と構造 渡部森哉 (南山大学教授) ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619
- 増殖するシャーマンーモンゴル・フリアートのシャーマニズムとエスニシティ 島村一平 (滋賀県立大学准教授) ISBN 978-4-86110-299-8 ¥7500
- ダワー・タンザニア、反乱と治療をもちあす謎の概念 岩崎明子 (文化人類学者) ISBN 978-4-86110-389-6 ¥3333
- ナシヨナリズムと宗教ー現代インドのビンドゥー・ナシヨナリズム運動 中島岳志 (東京工業大学教授) ISBN 4-86110-048-8 ¥3619
- 癒しと呪いの人類学 (第二版) 板垣明美 (横浜国立大学准教授) ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800
- ヴェトナムー変化する医療と儀礼 板垣明美 (横浜国立大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-145-8 ¥2381

# 刊行予定 (タイトルは仮)

▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼新版 大地の哲学 小野寺功▼仏教偏頗の研究 岩松浅夫▼よく生きるための死生観 岩崎大▼カントの人権思想 菅沢龍文▼デカルトによる修練の哲学 津崎良典▼古代ギリシャの死生観 木原志乃▼新井奥蔵選集 コールダニエル、三浦衛▼フイヒテ伝 湯浅正彦他訳▼朱子学の遷移 片岡龍▼現代のヒンドゥー・ナシヨナリスト・イデオロギーの分析 近藤光博▼Contemporary Irish Plays 佐竹晶子▼ポール・ボウルズ 外山健二▼「土佐日記」の言説研究 佐藤美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へII 中井辰▼アグリアスに魅せられて 大月和彦、深田晋一▼中央ヨーロッパ 歴史と文学 桂元嗣▼T.S. Eliot 山口敦子▼ジョー・オートン 矢島直子▼ブロンテ文学の遺産と影響 惣谷美智子、若上はる子▼制服のガールたち 杉村使乃▼「パターソン」を読む 江田孝臣▼バーナード・ショー 森川寿他▼「線」で読むディケンズ 松本靖彦▼叛逆者たちのアメリカ文化史 堀真理子▼個から群衆へ 佐久間みかよ▼救いと寛容の文学 川村幸男▼今村武編▼スコットランド文学の深層 木村正俊編▼幻想と怪奇の英文学IV 下楠昌哉▼東雅夫編▼英米人名小辞典 吉見明徳訳▼鱒hadahada 三浦衛▼吉野利弘先生・山内一芳先生喜寿記念論文集 菊池清明編▼村上春樹 精神の病と癒し 南富鎮▼荒地 滝沢博▼漱石論集 斎藤恵子▼長閑の世界へようこそII 細谷朋子▼伝承で読み解く文化ー藤倉恵子▼サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼記 今野喜和人訳▼本の縁 矢萩多聞▼17〜18世紀のポロラノ下演劇史 谷山和夫訳▼明治・大正 東京の歌舞伎興行 寺田詩麻▼益哉 川崎仁美▼暮らしの日本語 (スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼おしゃべりなポライトネス 笹川洋子▼自律のための教育学 大川洋▼難刀と学校教育 井上アヤ子▼野の学校 佐々木光郎▼擬人化の心理学 北村文昭▼教育のリーダーシップとハンナ・アレント 末松裕基、生澤繁樹、橋本憲幸訳▼健康自然塾 川村協平▼「ノ」の人間観・世界観に基づいたスピリチュアルケア 小西達也▼アメリカ教育福祉社会史序説II 倉石 一郎▼教育の理念・歴史・思想 藤井基貴、中村美智太郎編著▼「ウェルフェア・リングイスティックス」とことばの教育 佐藤慎司、尾辻絵美編▼小学校英語への専門的アプローチ 綾部保志編▼大学の理念 豊崎光衛訳▼知性的な信仰あるいは不信のための教育 井藤元他訳▼依存からひろがる人生機会 茶谷智之▼「エビデンス」に基づく教育の関を探る 杉田浩崇、熊井将太編著▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼真正の評価 渡部竜也他訳▼主権者教育論 渡部竜也▼多様化する子ども達に向き合う教師 瀧尾悠希子▼菅田恵之助の教育思想 山田直之▼統計家エルンスト・エンゲル 大田和宏▼現代中東政治学 末近浩太

# 出版をお考えの方へ

良書の企画をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。

春風接人  
江戸時代の医者が社会思想家に安藤昌益といひとがいました。研究者から「純朴な田舎医者」「三流の田舎学者」などと批判されましたが、疲弊した農民たちこそ社会の基盤をつくっているのだとの強い思いが、既成の宗教と思想を否定することになったと考えられます。やむに已まれぬ気持ちの高ぶりが昌益の文章には感じられ、それがかれの学問の根底をなした。学問は建物の外へ出たときに意味が問われると信じていますが、逆に、建物の外の風を身に浴びて学問すること、学問にとって欠くべからざるものと愚考します。林竹二は教育哲学者でしたが、ながく親近したひとの言によれば、林は「勉強」という言葉はつかっても「研究」という言葉はつかわなかったらしい。それが林の学問だったのでしょうか。弊社では九月三十日をもって二十周年を迎えます。今後とも高配のほどよろしくお願ひ申し上げます。

春風新聞 第二四号 二〇一九年五月二日発行  
発行者：三浦衛 発行所：春風社  
印刷：シナノ書籍印刷 レイアウト：矢萩多聞